

特定非営利活動法人ぴーす

平成 29 (2017) 年度
事業報告書

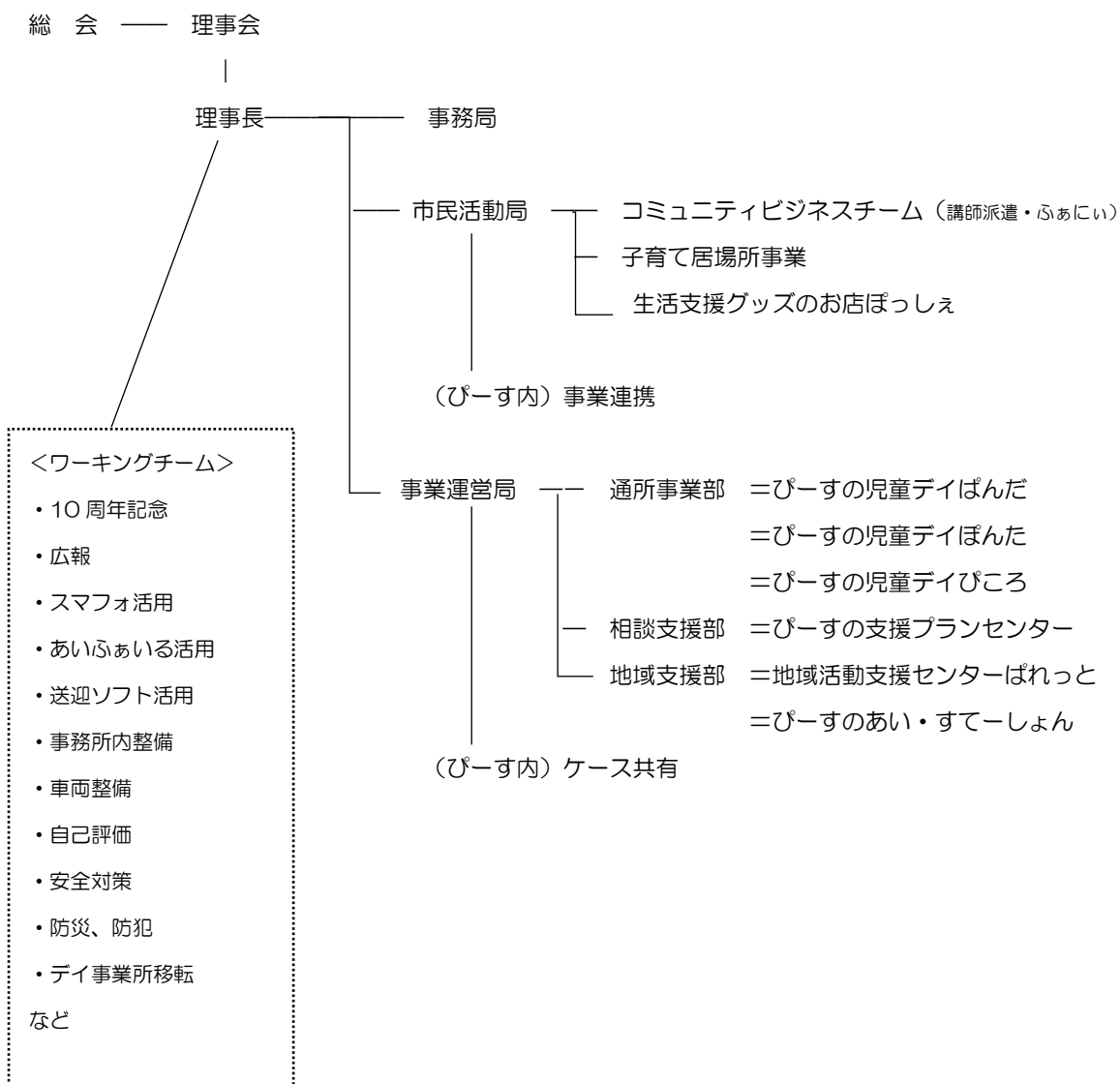




<目次>

- 1 ページ・・・ **ぴーす組織図・各事業の説明**
- 3 ページ・・・ **子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～**
- 主に、幼児期の子どもたちが参加したもの
 - 主に、学齢期の子どもたちが参加したもの
 - 18 歳以上の本人も参加するもの
- 16 ページ・・・ **保護者・支援者が利用・参加するもの ～寄り添う・高める支援～**
- 保護者・支援者向けに届けたもの
- 21 ページ・・・ **相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～**
- 相談に対応するもの
- 25 ページ・・・ **情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～**
- 主に来所する方への情報提供
 - 主にインターネットなどでの情報提供
- 30 ページ・・・ **啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～**
- 講演などへ、講師を派遣したもの
 - 他機関・団体との協働、強力をしたもの
 - 会議や集まりの一員として参加したもの
 - メディア取材・原稿依頼など
- 36 ページ・・・ **その他**
- NPO 法人として
 - ぴーすの職員が受講等した研修
- 40 ページ・・・ **理事長より ご挨拶**
- 41 ページ・・・ **年間利用者実数・延べ数・活動数等 集計**

平成 29 年度のびーす組織図



	本人が利用	家族が利用	相談対応	情報提供	啓発・連携
講師派遣				◎	◎
メールニュースふぁにい				◎	
子育て居場所事業 (WAM助成)	◎	◎	○	○	
生活支援グッズのお店 ぼっしえ	△	○	○	◎	◎
地域活動支援センター ぱれっと	○	○	○	◎	◎
びーすの支援 プランセンター			◎	◎	
びーすの あい・すてーしょん	○	○	◎	◎	
びーすの児童デイ ぱんだ・ぼんた・ぴころ	◎		○		

■■ 平成 29 年度の各事業の説明 ■■

<地域活動支援センター ぱれっと>

事業形態 障害者総合支援法/地域活動支援事業 堺市委託事業『地域活動支援センター生活支援型Bタイプ』

対 象 0歳からの全年齢の障がい児者及び家族

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～土：10：30～16：30

実施内容 ①日常生活支援 ②生きがい仲間づくり支援 ③地域関係機関との連携 ④プログラム（グループワーク）支援

<ぴーすの児童デイ ぱんだ／ぽんた／ぴころ>

事業形態 児童福祉法/児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援事業（ぴころのみ）

対 象 幼児～高校3年生までの児童発達支援、または放課後等デイサービスの支給決定を受けているお子さん

実施場所 ぱんだ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-19

ぽんた：大阪府堺市北区百舌鳥本町3丁 8-17

ぴころ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 22-2-102

実施日時 月～土：10:00～17:00

<ぴーすの支援プランセンター>

事業形態 児童福祉法/障害児相談事業 障害者総合支援法/特定計画相談事業

対 象 主に、0～18歳の障がいや発達に不安のあるなどのお子さんの保護者

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 月～金：9：30～17：30

<ぴーすのあい・すてーしょん>

事業形態 児童福祉法/障害児等療育支援事業 地域支援特別事業

対 象 0～18歳の福祉サービスを利用しないお子さん・保護者／保育所・学校・児童福祉サービス事業所など

事業窓口 地域生活支援センター ぱれっと

実施内容 ①訪問相談 ②来所相談 ③集団療育体験 ④個別療育体験 ⑤施設支援・助言など

<生活支援グッズのお店 ぽっしゅ>

事業形態 ぴーすのオリジナル市民活動

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～金：10：30～16：30 土曜日：11：00～17：00

<市民活動局 コミュニティビジネスチーム>

事業形態 ぴーすのオリジナル市民活動

実施内容 ①メールニュース『ふぁにい』 ②キッズサポートセンター・アドバイザリー業務 ③講師派遣 ④視察受入れ
⑤アンケートやヒアリング調査強化など

<おもちゃ広場：子育て家庭のための居場所運営事業（平成 29 年度 WAM 助成事業）>

事業形態 ぴーすのオリジナル市民活動

実施内容 ①おもちゃ広場の実施 ②相談対応・機関連携 ③他団体との協働で、こどもWS等イベントの企画・実施

■■ 主に、幼児期の子どもたちが参加したもの ■■

乳幼児期に発達の遅れやつまずきに気づいた保護者は、大きな不安におそわれます。ぴーすは、その不安な心に寄り添いながら、幼児期の「日々、成長する子ども」にとって最適な環境を用意することを保護者といっしょに考えて、次のステージへつなく支援を実施しています。

この報告書では、幼児期の子どもたちへの**直接支援**を、平成29年度に実施した形ごとに掲載します。

1：WAM助成事業〈おもちゃ広場〉

平成29年度は、(独立行政法人)福祉医療機構：WAMの社会福祉振興助成のモデル事業に申請をし、全国12団体の1つに選ばれ、実施しました。



実施内容は「障害・ひとり親など複合的にしんどさを抱える親子、制度の狭間で支援が届かない親子の『子育て・子育て』を『コラボで実現』すること」を目的にした居場所づくりです。

居場所は、障害受容前の保護者が利用しやすいよう名称を『おもちゃ広場』とし、たくさんの感覚統合を促す遊具やおもちゃを常設し、親子で自由に遊べるよう用意しました。子どもの遊びに寄り添う形で、遊びスタッフや相談員、ボランティア母が親子をサポートしました。

また『カフェタイム』を設け、保護者同士の交流促進も図りました。おもちゃ広場開催日以外には、子育て支援団体や関係機関からの連絡から紹介されるケースに対応。来所にて、インタビュー・アセスメントを実施し、必要に応じ公民さまさまざまな支援者へつなぎ、安定するまでの見守り支援を行いました。

■年間実施回数 39回

■年間参加延べ数 323人(親子の組数39組)

〈利用者からのアンケート〉

- ・なかなか言えない事や悩みを聞いてもらい、嬉しかったです。
- ・ずっと子どもの遊ぶ様子(勝手におもちゃを取ったり、お友達を押したり)を気にせず、ゆっくりできたので、とても助かりました。
- ・コーヒーを頂けて、ホッとできました。場所も広く、子どもも伸び伸びと遊ばせていただきました。

2：ぴーすの児童デイ 〈平日の児童発達支援〉

児童福祉法の通所サービスである児童発達支援。ぴーすでは利用者のニーズに合わせ、平日と土曜でプログラム内容を変えています。ここでは平日の児童発達支援について報告します。

平日のサービスは固定メンバーで、個別の支援計画のもと、療育を実施しています。

平日児童発達支援の目標

- ・健康な身体づくり
- ・身近自立の練習
- ・大人との信頼関係の構築
- ・豊かな幅の遊び体験



上記の他、「保護者支援」も大切にしています。

平成29年度も多くの利用がありました。

利用者は主に、以下のようなお子さんでした。

- ・地域の保育所・こども園等に通園している子
(専門的な療育を受けるために、週1~3回利用)
- ・児童発達支援センターの教室や他事業所と併用する子
(保護者ニーズより、週2~4回利用)

平日の児童発達支援の特徴は、毎年、月を追うごとに利用者が増えるということ。平成29年度も毎月新規利用者が増えたので、人数増加に伴い、年度途中より年齢や状態別で2チーム



に分けて活動することもありました。

1～2歳児の「身辺自立」を目標に、排泄、着替え、食事など、少人数できめ細かい支援を心掛けました。日に日に成長していく子どもたちをみることができました。

3～5歳児は「設定保育を通してのコミュニケーション能力の向上」を目標に活動しました。「散歩」「公園あそび」「室内でのアクティブ活動」「リトミック」などの大きく身体を動かす遊びと、「アート制作」「絵の具や小麦粉粘土などの感触遊び」など手指の細かい操作活動の2本立てで取り組みました。

行事として、毎月の参観ウィークの他に、「12月のクリスマス会」「3月のお別れ遠足」を実施しました。



3月の親子遠足では、アミティ舞洲に行きました。特性を考慮された大型遊具がたくさんあり、普段の活動ではできないようなダイナミックな遊びに、子どもたちはとびきりの笑顔を見せてくれました。また、母とずっと一緒に嬉しそうなおもちゃの様子、保護者同志の交流など、支援者としての気づきがたくさんありました。

3年近く保育園と並行で通所していた5歳児が、この春、地域の小学校に巣立っていきました。直前には、所属している保育園とびこ、相談支援事業所、新しく通う放課後等デイサービス事業所、入学予定の小学校が集まり、就学後の支援内容について、引き継ぎを行いました。これらの関係機関が、当該児とその家族の支援のため、同じ方向を向いて、話し合ったことは、私たちにとっても3年間の支援を振り返る、よい機会となり、スタッフの財産となりました。

その他の子どもたちも、多くはびこす『平日の児童発達支援』を巣立っていきました。その進路先、この春は幼稚園に進む子が増えたと感じました。進路先はどこであれ、新しいステージで良い支援者に恵まれ成長していってくれることを願っています。

■年間利用契約者 実数15名

＝A スタッフより＝

1～2歳児のチームでは、排泄トレーニングとして、20分おきにおまるに誘いました。Bくんは、最初不安そうな様子でしたが、おまるに慣れることを目標に、スモールステップで取り組むと、スタッフと一緒におまるに行けるようになったり、少し座れたり。「上手にできたね」と声をかけるのを繰り返すうちに、スムーズにおまるに行けるようになりました。排泄後に練習していた「ズボン上げる」ができた時は、私のほうがとても嬉しかったです。

＝B スタッフより＝

4～5歳児のチームでは、お店屋さんごっこや劇あそびで盛り上がりました。楽しい活動の中で、友達同士の結びつきが強まり、それに伴ってコミュニケーションのとり方も上手になっていきました。お互いを意識し、競いあい、励まし合いながら成長していく子ども達の姿は、とても頼もしく見えました。

3：ぱれっと〈おもちゃ図書館スペシャル〉

障がい児の母親たちのボランティアグループ『おもちゃ図書館ぼっぼ』と協働で実施したプログラム。ぱれっとの土曜日プログラムとして毎月第3土曜日に開催。ニーズに応じ平日の臨時開催も行いました。

活動目的は「障がい児が主役になれる遊びの場」の提供を通して、家族のエンパワメントを支えること。子どもの遊びに寄り添う形で、保護者が他児の保護者、支援員、ボランティアスタッフと交流できる場所であることを大切にしています。

言いにくかった悩みを相談できたり、情報交換を行ったりしながら、互いのエンパワメントが向上する場となっています。

■年間実施回数 19回 ■年間参加延べ数 158人

＝ スタッフより ＝

プラレール、ミニカー、仮面ライダーグッズ、シルバニアファミリーなど色々な種類のたくさんのおもちゃがあるので、初めて来館された子どもたちは目を輝かせて、3時間目一杯遊んでいけます！

大好きなアンパンマンのおもちゃですーっと遊んでいる子。色々なおもちゃを手にとって、色々な遊びをしている子。遊び方はそれぞれです。そんな子どもたちの様子を穏やかに見守っている親御さんたち。おもちゃ図書館スペシャルはいつもごやかな雰囲気です。

★ボランティアグループ『おもちゃ図書館ぼっぼ』
おもちゃの管理（クリーニング&メンテナンス）を行っています。また、プログラムにボランティアで参加し、子どもたちの遊びに寄り添い、保護者間交流の担い手となっています。

※ボランティアグループ 「ぼっぼ」の活動内容	年間	延べ数
おもちゃのクリーニング	9回	27名
運営会議	9回	27名
総会	1回	9名
合計	19回	63



4：びーすの児童デイ〈土曜の児童発達支援〉

児童福祉法の通所サービスである児童発達支援。土曜日はびーすで実施しました。正確には、対象年齢は幼児～小2。将来の『趣味・余暇』につながる力を育成するための療育サービスを提供しています。

プログラムは、アクティブ・音楽・アート製作・おやつクッキングの4つ。どのプログラムでも、子ども達の「自分を表現できる場所、自分らしく楽しめる場所、自分を認めてもらえると感じられる場所」であることを大切にしています。そのため「一人ひとりが見通しを持てる支援」として、スケジュールや手順書を用意。また「チャレンジしやすい環境整備」として、個々に合わせた道具や材料の工夫をしています。

以下が、平成29年度のプログラムの内容と報告です。

== 室内アクティブ活動 ==

室内で、身体を大きく使う遊びを行う『アクティブ活動』。

平成29年度のあるクラスでは、アクティブ活動の前に簡単な製作活動をしました。その際に作った旗を持って、アクティブ活動でサーキットを回るなど楽しむ様子がありました。



== 音楽 ==

集団で音楽を楽しむプログラム。平成29年度は、使用する曲や楽器を変更したり、新しい道具を取り入れたりという変化を少しずつ行い、子どもたちの様子を見守りました。最初は変化に戸惑っていた子がだんだん慣れて、一緒に活動したり、新しい物に興味をもったりという成長が見られました。午後クラスでは、楽器のリズム演奏が、回数を重ねるごとに上手になっていきました。

== アート製作 ==

年齢や個々の好みやスキルをふまえたアート製作活動。平成29年度は、季節合わせた壁面づくり、プレゼントやおもちゃづくりをしました。2月の「鬼の馬拉カス」では、完成後にうれしいように「カタカタ」と馬拉カスを鳴らして遊ぶ子がいました。

== おやつクッキング ==



食物アレルギーに配慮しながら、ホットケーキやピザ、サンドイッチなど、子どもたちが好きそうなメニューで、将来の調理スキルにつながるクッキングをしています。平成29年度は、ホットケーキミックスを使ったおやつ、フルーツや野菜を使ったおやつなどを作りました。調理工程は「材料を混ぜる」だけでなく、切る、刺す、トッピングする等、手指の操作性にもつながる作業を取り入れたりしました。

■年間利用契約者 実数28名

■ ■ 主に、学齢期の子どもたちが参加したもの ■ ■

学齢期といっても、小1～高3まで幅広く、年代により子どもたちが抱える課題は違います。自分の力をしっかり伸ばす小学生時代、思春期の難しさがでる中学生時代、大人への移行期となる高校生時代、それぞれに丁寧な支援が必要です。

ぴーすは「年齢相応の活動」にこだわり、どの活動にも「その年齢にふさわしい内容」を意識して行っています。そのため活動の目的に合わせたチームを作り、支援を実施しました。

▼△ 生活力や社会性をアップするための活動 △▼

将来の自立に向けた力をアップするための活動を平日の放課後等デイサービスで行っています。年齢や特性で分けたチームで、次の目的と方針にて、活動をしています。



活動目的：単なる「預かり」ではなく、一人一人の障がい特性や持っている力（苦手なことできないことも含め）をしっかりと捉え、その力を「より伸ばす支援」、本人のしたいことが「できる工夫」などを行うことで、将来の『その子らしい自立』を目指すこと。

活動方針：「今、楽しく暮らす」ことをベースに、年齢らしい「チャレンジ」や「役目を担うこと」「友達付き合い」ができる環境を整える。一人ひとりの子どもの「こうなりたい」という心の声に耳を傾けて個別支援計画を作成。日々、それを基に家庭と連携しながら支援を行う。

生活力アップをめざし、以下の力を育てる。

1. 家で過ごす力

自分のことは「自分でする」力、家の中で「ひとりで」または「家族と楽しむ」力、家族に「役立つ」力

2. 地域に交わる力

街中で「移動する」「買い物する」「外食する」などにおい

でのマナーやルール、エチケットの獲得

3. 友人と楽しむ力

同世代の友人、異世代の先輩・後輩の中で、「協力する」「認め合う」力



5：ぴーすの児童デイ <平日のぱんだ>

百舌鳥支援学校・地域小学校の小・中学生が利用。

＝ 平成 29 年度の活動の様子 ＝

今年度のぱんだは、新1年生が5名加わり、雰囲気ガラッと変わりました。年齢差があることで、活動の内容を分ける必要がありプログラムの工夫が必要でした。

1年生メンバーの今年度の目標として『好きなこと見つけて、楽しく過ごす』ことを意識し、「これが好きかな？」といういろいろ試しながら、子ども達の様子に応じ、日々工夫をしました。

4月当初は、『靴を片付ける→荷物を片付ける→スケジュールを確認する→手を洗う』の一連の流れからスタート。スタッフが関わる中で、少しずつ目が合うことが増え、したくない時、順番を入れ替えたい時などの交渉も絵カードを用いてできるようになりました。また、後半には、自主的に『〇〇がほしい!!!』『〇〇がしたい!!!』『〇〇に行きたい!!!』など自発的な要求が増え、日々の積み重ねの大切さを実感することができました。



以前からの在籍の先輩たち（高学年・中学生）は、新一年生に対して場所や順番、お気に入りのグッズを譲ってくれるなど、先輩らしい対応が多く見られました。また今までの経験から、夏休みは堺東界隈への外出や外食にも、積極的にチャレンジ！

集団行動も慣れた様子で、表情からハッキリとわかるくらいに楽しむことができていたようでした。何より、急なスケジュール変更や思わぬ出来事にも大きく気持ちを崩すことなく、臨機応変に対応することもできるようになりました。改めて、日々取り組んでいる『交渉する』『見通しをもつ』支援の大切さを実感しました。

毎年感じている事ですが、大人が心配せずとも日々の活動の経験の中で『後輩は先輩を見て真似をしてみる、先輩は先輩らしく気を使う』ということが、自然と身につくものだと異年齢での活動の重要性を実感した1年でした。

■年間利用契約者 実数 27名

== A スタッフより ==

平成29年度もたくさん子どもと関わり、学ぶ事がありました。主に支援学校の新1年生の子どもと関わる事が多く、最初の頃は「学校から放課後にぼんたの家に来る」という初めてのことに不安定になる子もいましたが、少しずつ環境にも慣れ



て、できることが増えています。その

達の成長に関わる事ができ、とても嬉しく思いました。

6: びーすの児童デイ <平日のぼんた>

堺支援学校・泉北支援学校・西浦支援学校の高校生、百舌鳥支援学校の中学生が利用

== 平成29年度の活動の様子 ==

今年度のぼんたは、数人の新メンバーを迎えましたが、大きく入れ替わることはなく、今まで積み重ねてきた経験を感じる落ち着いた1年になりました。活動内容は、“集団活動”をメインに行いました。活動開始時刻を統一・全員揃った状態で開始することで、“時間を意識する・集団を意識する力をつける”個々が自分の役割を持ち、その“役割を最初から最後までやり遂げる”ことを目標に取り組みました。

「ペットボトル運びのお仕事」「ぼんたの備品の買い物」「おやつの買い物」など、どの集団活動も『誰と、どの順番で歩くか』を毎回提示することで、一緒に動くスタッフ・友人を自分で意識する姿が見られるようになり、よりチームワークのあるグループの活動ができていると感じました。



長期休暇では「クッキング」「外出・外食」をメインに行いました。クッキング後は一斉に片付けをする時間を作り「食器洗い」「食器の片付け」「台拭き」「掃除機」などのお仕事を協力して行うようにしました。今までは、個々の活動であった「お手伝い」が『A君が食器を洗う』『Bくんが食器を拭く』『C君が片付ける』となることで協力しているなど目に見えて感じることができました。今後もこの支援を続けていきたいと思います。

■年間利用契約者数 実数 16名

== A スタッフより ==

散歩のペースを合わせるなど、それぞれが周りを気遣う様子を集団活動で目の当たりにし、一緒に活動してきた仲間の中で、お互いに認め・競い、身につけてきた力なんだな〜と感動しました。特に今年度は、小学校低学年から放課後活動に参加していた子どもたちが高等部3年で、卒業を迎え、幼い頃を思い出しつつ、その成長に感慨深いものがありました。

おやつクッキングメニューは、同じものを1ヵ月単位で繰り返す配慮をしており、2回目には、手順もわかりテキパキこなす子も多く、作るだけでなく、材料や用具の準備から、使ったお皿や用具を洗う活動まで行いました。

アートでは、みんなで貼り合わせて作るカレンダー作品や一人ひとりで作る貼り絵など1年を通じて取り組みました。小さいパーツに手こすりながらも集中し、根気よく貼る姿も見られました。子や見本と寸分の狂いもなく作る子など、その子の個性が光る素敵な作品がたくさんできました。



7:ぴーすの児童デイ <ドレミファポップ>

主に地域の学校に通う小学生から高校生が利用。

== 活動の様子 ==

SSTを実施するチーム。活動内容の基本は、おやつ・学習(宿題)・みんなでトーク(ミーティング)・仕事(そうじなど)。みんな違う学校なので来所する時間がバラバラですが、それぞれが来所する度に声をかけあう姿に仲間意識を感じられます。

『みんなでトーク』は、テーマを設けて全員参加で話し合う活動。毎回必ず行っています。目的は「人とのやりとりを含めた社会性を育くむ」「言葉・コミュニケーション・社会性のスキルを伸ばす」というSSTです。さらに具体的な目的として『人付き合いのコツ』『困難な場面を回避するためのスキル』『良好な人間関係を自ら築く力』などを身につけることを目指しています。そのために、話し合う集団に合わせテーマを選択。テーマは「季節の行事」「集団活動の内容決め」「最近のニュース」や、低学年が多いチームは「語彙を広げる簡単なゲーム」にも取り組んでいます。



また思春期の利用児も多いことから、前年度から引き続き、NPO法人えんばわめんと堺に依頼をして「SAY(性・生)の会プログラム」を実施し、「性を通して自分自身と相手を大切にし、守ること」を学びました。最初は意見を言うのをためらっていた子どもでも、資料に興味を持ったり、寸劇を引き受け参加しました。



ドレミファポップの子どもたちは、みんな「言葉」での会話が可能ですが、「言葉でうまく表現できない」「感情のコントロールが苦手」だったりします。『みんなでトーク』では、自分の意見や気持ちを伝える場面を作り、個々のスキルを伸ばすよう支援しています。回を重ねていくと、他の子の意見に耳をかたむけ一緒に笑ったり、小さい声で答えをつぶやいたりという姿に変化していきます。



8：WAM助成事業 <子どもたちのワークショップ>

コミュニケーション等に課題を抱える発達障がい児を対象とした「体験的に SST を学ぶプログラム」を企画しました

同時に、保護者のエンパワメントを高める目的で、相談会も実施。発達障がい児の「障がい特性」や「思春期」に悩み、かつ地域で孤立しがちな保護者に対し、悩み相談と情報提供を行いました。

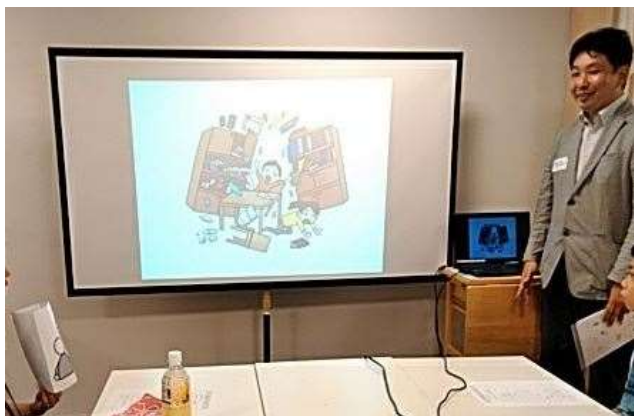
この企画は他団体とのコラボレーション（協働）で実施。NPO法人えんばわめんと堺/ES、堺市発達障害者支援センターアプリコット堺、一般社団法人POROの皆さんと、お互いの強みを活かしてコラボしました。

平成 29 年度は、全 4 回開催でした。

<楽しく学ぼう！非常時のコミュニケーション>8/3

スライドを見ながら「棚から花瓶が落ちてきたら?」「地震が起きたらどうする?」などの質問に、それぞれ発表してもらいました。

毎回、他の参加者の発言中にも、つつい自分の意見を言いたくなる子が多いので「発言プレート」を準備！プレートを持っている人が発言し、他の人は話を聞くというルールを目で見てわかる形で示しました。



「物が散乱する部屋から安全に脱出するには?」というお題に「カーテンを引きちぎって広げて、その上を歩く」「スリッパを履いて逃げる」など、スタッフもビックリするほど、具体的な意見が出ました。

■参加者数：4名

**<気持ちいい「話し合いルール」を学んで、****夏休み”メガ進化”しよう！>8/24**

友だちづきあいが難しい、集団生活が苦手、怒りが爆発してしまうなどの「しんどさ」を抱えた子どもに、楽しみながら学んでもらうことを目的に開催されたワークショップ。



今回は「上手な断り方」「断られた時の心がけ」について、まずはプリントで、その後ロールプレイで実践しながら学びました。プリントでは上手に断ることができていた参加者も、実際のロールプレイになると、つい「いいよ!」と言ってしまふ。もしかしたら普段も断れずにいるのかなと感じました。

そこでしっかり「断る」練習をしてもらいました。断っても、次に遊べる日を提案する、「ごめんね」「嬉しかったよ」を伝えることで、お互いに嫌な気持ちにならずに、次の約束が出来ることを、身をもって体験してもらいました。

■参加者：8名

<女の子あつまれ〜♪**ステキな大人になるためのワークショップ>12/26**

子どもワークショップ初めての女の子だけのワークショップ。きっかけは第 2 回目に参加した保護者からの「男性教諭の膝に座る、スカートで足を広げて座るなど、ふるまいが分かっていないので心配。女の子向けのワークショップをやって欲しい」。という要望でした。

まずはプライベートゾーン、体の変化、月経や性器の洗い方について、女の子の性器模型を使って学びました。

続いてはからだと心の境界線を学ぶために、サークルズ概念を使って、まずは自分と周囲の人との距離を話し合いながら考えました。

ロールプレイでは、まずスタッフが実践！話しかける時にべったりくっつく姿を見て「近い、近い!」という意見が出まし

た。実際に見ることで、自身の体験もポツリポツリと話してくれる参加者もいました。

保護者へのフィードバックは、子どもにとって保護者は一番身近な「男性・女性のお手本」であること。お子さんを1人の人間として尊厳を持って接することが、一番の性教育であるとお伝えしました。

■参加者：11名



<気持ちいい「話し合いのルール」を学んで、

春休み”スーパーメガ進化”しよう！>

第2回をさらにパワーアップさせ、気持ちの中でも「怒り」について学びました。「あとで食べようと思っていたケーキを誰かに食べられた」などのお題に対し、「怒りの温度計」を使い、自分ならどのくらい怒りの感情を持つか、実際に体を動かして表現してもらいました。同じお題でも、怒りがMAX100の子もいれば、0の子もいました

「怒る」という感情について、マイナスイメージを持っている参加者もいました。『「怒る」ということは悪いことではない、怒ったっていい。でも約束事がある』ということ全員で学びました。すっかりお馴染みのロールプレイでは、皆イキイキと演じていました。

■参加者：6名



主に、学齢期の子どもたちが対象の

▼△ 趣味・余暇を楽しむ力を育てる活動 △▼

人生を豊かにする『趣味・余暇』。ぴーすは、その趣味や余暇の力や、同じ趣味をもつ友人とつきあう力を育成する活動を大切にしています。

例えば『ぴーすの児童デイ』の土曜日は、3つの事業所それぞれで「年代や障害の状態に合わせたチーム」を構成。

前述の『ぴころ(5ページ参照)』では、幼児から小学2年の小さな子どもたちが「運動、音楽、アート、クッキング」にチャレンジ。このチームは予約制なので、それぞれのお子さんがいろいろな内容に参加し、その体験の中から「その子の好きなプログラム」を見つけてもらうことを目的としています。

そして小学3年生になると、ぱんだやぼんたの「メンバー固定」の「スポーツ、音楽、アート、料理」のチームに移動をします。高校3年生まで利用することができます。

『ぱんだ』では〈言葉によるコミュニケーションが可能な子〉が、集団で・仲間と協力しあいながら活動するプログラム。

『ぼんた』では〈個別の介助が必要な子〉などが、自分の趣味力のアップしながら、余暇を楽しむプログラムを実施しています。プログラム内容は、『ぴころ』からのつながりを持たせ、『スポーツ、音楽、アート、料理』です。

平成29年度の内容は以下のとおりです。

9：ぴーすの児童デイ <土曜のぱんだ>

〈言葉によるコミュニケーションが可能な子〉の集団活動。

== スポーツ ==

身体を動かす楽しさを体感。スポーツ全般への興味関心を高められるよう、いろんな競技の体験、観戦なども取り入れ、スポーツを楽しむ力をつけるプログラム。

平成29年度は、継続しているマラソン活動について、新たに『プチ駅伝』を導入しました。子ども達はタスキを一生懸命につなげていました。中でも、アンカーの子どもがゴールテープを倒れ込んで切る姿は、とても印象的でした。

夏はプールで水泳を楽しむ、秋は遠方へ森の散策活動を実施しました。ペットボトルボーリング・バトミントン等球技もオリジナルルールを導入して、楽しみました。





今後も様々なスポーツを通じて、楽しみつつ、体力向上や興味の幅が広がればと思います。

== アート ==

絵画・書道・工作などの製作活動。達成感のもてる作品を制作することで創作意欲を高め、幅広いジャンルに挑戦することで興味関心の幅を広げる、アートを楽しむ力をつけるプログラム。具体的には、習字・絵画（工作）・粘土に取り組んでいます。

習字では、用意した手本に加え、子どもたち自身が季節感のある「お題」を上げ、取り組みました。また思い付いたものを独創的な書字に仕上げることもあり意欲的に取り組む様子が見られました。



粘土においても同じく、柔軟な発想でストーリーを考えて製作。大きな作品から細やかな作品まで、個性的なものができるようになりました。



== クッキング ==

自分たちの食事を、集団で協力しあいながら調理する活動。みんなでメニューを選び、役割を決め、全員で調理を行い、ともに味わうプログラム。

平成 29 年度は役割分担を決めて、それぞれが自分の役割を認識し、役目を遂行することに目標にしました。具体的には、月替わりで下準備班・買い物班を決めて、下準備班は、食材がそろうまでにお米を研いで、炊いたり、食材の下ごしらえを行いました。買い物班は、だれが何をかうか、支払いはだれがするかを『始まりの会』で

話し合ってから決め、行いました。それぞれが目的を持って取り組み、積極的に取り組むことができました。

料理の腕前も随分と上達し、次の月は「何を作りたいか」も子どもたちで話し合ってから決めていました。

■年間契約者数：26



10：びーすの児童デイ <土曜のぼんた>

ぼんたでは、ぱんだと同様「将来の趣味・余暇につながる力をつける」ことを目的に、「音楽」「アート」「スポーツ」「食食クッキング」を行っています。ぱんだとの違いは、個別のケアが必要な子はスタッフとマンツーマンで活動していることで、個々に違う目標を持ち、趣味スキルのアップを目指しています。

== 音楽 ==

音楽の先生による個人レッスン。ピアノ演奏、太鼓や鳴子を使用した『リズム練習』の他に、音楽と通じ『身体の緊張をほぐす練習』など、個々のレベルに合わせ、内容を決めています。

レッスンが終わる度に先生とスタッフが振り返り。通常の活動では、見ることない意外な一面を知ることが出来る機会でもあり、次の支援に活かしています。

Aくんは、白紙の五線譜に自分で黒丸を書き入れ、先生に「これはどんな音？」と質問。先生といっしょにピアノで音を確認。一つ一つに音階があることに気が付きはじめました。これが、楽譜への興味につながると期待しています。

Bくんの目標は「座って音楽を聴くこと」から始まり、年度末には「力の加減をコントロールする」ことを目標に、先生のピアノに合わせて太鼓をたたき練習にステップアップしました。

== アート ==

前年度から引き続き、『チューリップのメッセージカードの作成』、『習字』と今年から低学年向けに『季節を意識したミニアート』など製作活動に取り組んでいます。幅広いジャンルに挑戦することで、興味関心の幅を広げる活動をしています。

手順書や見本を見ながら、花紙をまるめたり、つかんだり、

指先を意識しながら、のりを少しつけたり、一つ一つの工程をスタッフと一緒に丁寧に取り組みました。これらの作業が、作品につながる楽しさも感じる事が出来たと思います。



== スポーツ ==

昨年から引き続き、『大仙公園の広場』にて「広場の周りを走るマラソン」「スタッフと1対1で行うキャッチボール」などを行いました。

平成 29 年度は新しい低学年の利用者が入ったことで、「散歩」を追加。ぼんた近くの公園で身体いっぱい動かし活動しました。地域の子もたちとすべり台の順番待ちをしたり、譲りあったりして「地域との関わり」を持つことが出来ました。「いたすけ公園」外周散歩では、野鳥やタヌキをスタッフと指差し確認したり、季節感を肌で感じながら散策しました。子どもたちが大好きな電車が近くを走っているので、安全な場所で本数を決め、見学も行いました。



== クッキング ==

簡単な料理を「手順書を用い自分で作る」個別活動。メニューは「カレー」「シチュー」「ポトフ」など6種類の中から子どもたちが選択しました。

調理は、手順書を個々に用意しています。

まず調理器具から準備します。「この器具はどう使うの?」と不思議そうな様子もみられることもありましたが、手順



書を見ながらスタッフと一緒に進めました。

クッキング中に困ると、自分から「ヘルプ」を出すのも上手になりました。

ぼんたでの経験を活かし、自宅でお料理のお手伝いをする子も!

積み重ねていくことで、楽しい趣味になればいいなとスタッフは願っています。



■年間契約者数：15名

11：ばれっとく鉄道クラブ>

「鉄ちゃん」のための趣味応援プログラム。

月1回第1週の土曜日に開催しました。

ばれっとの広いスペースを活かして

- ・運転シュミレーションコーナー
- ・プラレールコーナー
- ・時刻表コーナー
- ・車掌体験コーナー
- ・鉄道クイズコーナー

などマニアックな内容で開催しました。



■年間実施回数 16回 ■年間参加延べ数 183名

= ある日の活動より =

レールを組み立てるのも、電車を走らせるのも、走る電車を眺めるのも楽しみ方は自由です。ラピートも本物と同じ6両編成!カーブでのすれ違いシーンの再現!・・・大人顔負け、もう本物の鉄道ファンもいます!

ばれっとの広いスペースが一だジオラマに早変わり。

たくさんの駅や鉄橋、踏切、上下にすれ違う電車など複雑な線路の配置!そのジオラマを色々な種類の列車が走り、その様子を大興奮で見ている子どもたち。

また時には、2人の「常連のお兄ちゃんズ」が現地まで行き自分達で撮りためた画像や動画を見せて、未就学児や小学生の子どもたちに鉄道クイズも出題してくれました。とってもマニアックな難問もあり、スタッフが頭を悩ませるなか、答えてしまう小学生たち。びっくりすること満載の鉄道クラブです。



■ ■ 18歳以上の本人も参加するもの ■ ■

12：ばれっと〈しゃべり場〉

渡邊元嗣先生（精神保健福祉士・学校心理士・特別支援教育士）をボランティアで迎え、当事者向けに「いつでも誰でも自由に」のスタイルで行なっているプログラム。開催日が土曜日ということもあり、就労している人の利用が多いです。

平成24年に開始して、丸6年。月回数に変化はあるものの休まず継続しています。

基本、過ごし方は自由スタイルですが、『ミーティング』で近況を語りあったり、『しゃべり場新聞』に掲載する「想い」を言葉メモや飾りを作ったり、『かたづけタイム』では、家ではしない？！そうじをしたり、最後の『撮影タイム』では、今日の出会いを記録したりと、ゆる〜い集団活動も行っています。

平成29年度の活動から、ばれっとの避難訓練日のことを報告します。しゃべり場の利用者にとっては、昨年に続き2回目。

趣旨も理解したうえで、全員参加となりました。支援員とともに迅速に梅町公園に避難し、点呼&安全確認しました。そしてこの日のミーティングは実際地震や火災などが起こった際、どう対処したらいいかを話しあいました。以前は



司会進行など、支援

員がヘルプすることもありましたが、今では、利用者が自立的に行っています。

■年間実施回数 9回 ■年間参加延べ数 95名

■ ■ 自主活動 ■ ■

ピーすでは、外出や芸術・趣味的な活動に取り組む当事者の自主活動を応援しています。

それらの平成29年度の様子を報告します。

13：ばれっと〈自主グループ ランニングチームOne〉

1つ目の紹介は『ランニングチーム☆One』。

名前の通り、ランニングが趣味の知的障がい・発達障がいのある小学生～高校生とそのお母さんたちが一緒に活動しているグループです。

「楽しく身体を動かして汗をかくこと」を目標に、ランニングに取り組んでいます。毎月の練習の他にも、公的なマラソン大会へも積極的に参加しました。

＝平成29年度の活動の様子＝

多い時で総勢10名。活動場所は大阪府立大学が多いですが、時には大泉緑地や大仙公園に行ったりします。今年度は堺市民マラソンに参加するべく、各自目標を決め、練習に励みました。

■年間実施回数 9回 ■年間参加延べ数 60名

14：ばれっと〈自主グループ カラフル〉

『カラフル』は、重度知的障がいの小学生2組で、ダイナミックなアート活動に取り組んでいるグループです。

＝ 参加した保護者の感想 ＝

平成29年度は、1～2カ月に1回、アート活動をしました。決まった活動を行うのではなく、好きな画材で思いつく



ままに絵を描いたり、見本を見ながら一つの絵を仕上げたり、子どもたちのやりたいことをそれぞれで行いました。タンポを使ったり、絵の具をつけたスーパーボールをお盆の上で転がしてみたり、楽しみながらアート活動をおこないました。

また今年も、ばれっとアート展に出展する作品を制作しました。額も自分たちで準備しました。

■年間実施回数 6回 ■年間参加延べ数 24名

▼△ 特別開催のプログラム △▼

自主活動グループの活動発表の機会を提供。

平成 28 年度までは『一人で＝個展』で行っていたものを、平成 29 年度は『みんなで＝アート展』に変身させました。

その報告をします。

15：ばれっとアート展

障がいのある人たちの創作活動/余暇活動を支援し、その個性豊かな芸術性に光をあて、作品の魅力を広く知っていただくとともに、多様な個性のコラボレーションによって生まれる新しい空間づくり/仲間づくりを目的に企画しました。

『さをり織アーティスト』福山豊明さん、『ビーズジュエリーアーティスト』北原徳美さん、『書字/陶芸アーティスト』松浦裕樹さん、ばれっと自主活動グループ『カラフル』、そして、地域活動支援センター『遊夢音』『わかば』とコラボし、盛大なアート展を開催しました。

■実施日：10月24日～10月28日 参加者 62名



＝ スタッフより ＝

▼さをり織アーティスト』福山豊明さん

素敵で感性の持ち主であるダウン症の福島豊明さん。今回のアート展でも、終日来場者笑顔でお出迎え。その場を和ませるアイドル的な存在でした。スタッフにもいつも優しくほがらかに声をかけてくださいました。今回は母の知らぬ間に、自ら近所の町会長さんに電話をかけ、アート展へご招待したり、と今回のアート展では広告塔としても大活躍されていました！

▼『ビーズジュエリーアーティスト』北原徳美さん

北原さんのコーナーには、ビーズジュエリーはもちろん、古代エジプトの神様の絵、小説、編み物、エコバックの制作など、本当に幅広い作品がずら～り！最初は先輩アーティスト親子



に圧倒された様子でしたが、時間の経過とともに、良き相談相手を得て、元気が出たとのことでした。また来場者と、同じ趣味や悩みも似ていると意気投合され、お友達になっておられました。多くの来場者より賞賛を得た徳美さんの作品は、販売してほしいとの声が絶えませんでした。

（徳美さんの作品は、ばれっとにて常時展示・販売も行っています。リクエストも可能）

▼書字/陶芸アーティスト』の松浦裕樹さん

松浦さんのステキな作品がいっぱいのテーブル。でもご本人は会場に居るのはしんどいかも・・・とスタッフは心配していましたが、最終日に松浦さんご自身がオープンから参加。たくさんの方の来場者にも関わらず、上手に自分の居場所を見つけ、お母さんとジェスチャーでコミュニケーションされ、終日落ち着いて過ごされていました。



▼自主活動グループ『カラフル』 他

自主活動グループ『カラフル』にとっては、初めて多くの人に作品を観てもらえる機会となりました。遊夢音やわかばの利用者、ぴーすの児童デイ利用者の出展もありました。



コラボで実施したアート展。参加者間の交流が促進され、日を追うごとに、参加者のエンパワメントがUPしたようです。互いの知り合いを招待したことで、多様な来場者に観賞してもらえたことなど協働による成果がありました。

開催目的である『新しい空間づくり/仲間づくり』が達成できたかと思います。



..... 子ども・本人が、利用・参加するもの まとめ

■幼児期■

== 平日 ==

- 1：WAM<おもちゃ広場>
- 2：ぴーすの児童デイ<平日の児童発達支援>
- == 土曜 ==
- 3：ぱれっと<おもちゃ図書館スペシャル>
- 4：ぴーすの児童デイ<土曜のびころ>

■学齢期■

== 生活力・社会性をアップする ==

- 5：ぴーすの児童デイ<平日のぼんだ>
- 6：ぴーすの児童デイ<平日のぼんた>
- 7：ぴーすの児童デイ<平日のびころ>
- 8：WAM<子どもたちのワークショップ>

■学齢期■

== 趣味・余暇を楽しむ ==

- 9：ぴーすの児童デイ<土曜のぼんだ>
- 10：ぴーすの児童デイ<土曜のぼんた>
- 11：ぱれっと<鉄道スペシャル>

■18歳以上■

- 12：ぱれっと<しゃべり場>

■自主活動■

- 13：ぱれっと<ランニングチーム One>
- 14：ぱれっと<カラフル>

■特別開催■

- 15：ぱれっと<アート展>



■■ 保護者・支援者向けに届けたもの ■■

ぴーすミッションの1つに『保護者のえんばわめんと支援』があります。障がいという言葉に翻弄され、不安や絶望感に苦しむお母さんたち。その心に寄り添い心のケアをしながら、同時に必要な情報を伝えたり、暮らしの中の工夫をいっしょに考えたりしながら、お母さんたちがもともと持っていた『子育てへの夢や希望』を取り戻してもらおう支援です。

その形の1つが、保護者向けのセミナーやグループワークで、ぴーすでは「ぴあ」で届ける内容を大切にしています。

平成29年度は、以下のような内容をお届けしました。

1：WAM〈シングル家庭のためのおしゃべり&ランチ会〉

母子密着が強くなりがちなシングル家庭では、子どもの荒れに悩む家庭が多いです。そこで、多数のシングル・プレシングルママの相談実績があり、自らもシングルマザーでもある女性相談員の大森順子さん（シングルマザーのまえむきIPPO）をお招きし、『シングル家庭のためのおしゃべり&ランチ会』を開催しました。



開催したのは、9/18と11/18の2回。仕事のこと、子育てのこと、将来のことなど、普段から何となく抱えているもやもやした悩みや、普段話せないことなど、大森さんを囲み、ワイワイおしゃべりをしました。

●相談内容と対応

- ・経済的な不安 ・仕事の悩み ・子どもの進路先
- ・公民の奨学金等制度の利用について ・思春期の対応
- ・親との関係 ・自分自身の体調/ストレス など

お母さんたちがおしゃべりしている間、子どもたちはボランティアの学生さんと「普段がんばっているお母さんのためのランチ」を準備。ランチタイムには、ボランティアを含め参加者全員で簡単な自己紹介をし、交流を図りました。

食材の提供でコラボした認定 NPO 法人ふーどばんく OSAKA には、昼食準備とともに、活動紹介もしていただき、参加者全員が「余り食材を、必要な人につなぐ活動」について知る機会となりました。

■年間実施回数 2回

■利用人数合計 保護者 12名 子ども6名 ボラ 17名

== 参加者の感想より ==

『悩みや状況を共有できてよかった』

『勇気づけられ、頑張ろうと思えた』

『お話を聴いて、明るい気持ちになった』

『他の人の話を聴くって、大切ですね』

『自分のための時間も作ろうと思えた』



*** コラム さかい子ども食堂 ***

「シングル家庭のためのおしゃべり&ランチ会」のこと、本当に必要な人に情報を届けたいと想い、募集PR先を探していたところ、『さかい子ども食堂ネットワーク事務局』が子どものSOSのつなぎ先として、発達障害支援関係機関を紹介していることを知りました。つまり、子ども食堂利用者の中に、子育てに複合的な課題を持つ家庭の子どもがいるということがわかりました！

担当者と面談したところ、「地域の居場所として運営している共生型食堂にケアの視点を取り入れていく必要を感じている。また将来的には、ケア付き食堂をつくることを検討したい。」とのお話がありました。

複合的な課題を抱える家庭の支援は団体関係機関の連携が必要ですねと意気投合！来年度に向けて、協働を模索中です！

2：ぴーすのあいすてーしょん〈あい・ふぁいる活用セミナー〉

堺市には、乳幼児期から成人期に至るまでのライフステージに応じてその情報を記録し、次の機関につなぐことにより、一貫した支援を受けることをめざした「あい・ふぁいる」があります。



無料で配布されているものですが、いざ作るとなると、どう書けばいいかわか

らないという人が多いようです。そこで、ぴーすでは今年度、「あい・ふぁいる活用セミナー」を、前年度の4回から7回に増やしました（うち1回は成人の保護者向け）。

セミナーは毎回、多数の参加者でとてもにぎやかでした。参加者からはあい・ふぁいるの記入だけではなく、ファシリテーターで参加している先輩母たちの話（学校や子どもの成長について）が聞けたりすることも好評でした。時には、そのままぴあ相談が始まることもあります。

また昨年度の感想の「利用者とその支援者が一緒にセミナーに参加したところ、子どもの支援について、情報共有できて良かった」という声を活かすため、今年度は、『利用者とその支援者、いっしょに受講』を、その利点とともにPRしました。まずは、近いところから・・・と、ぴーす内のサービス事業所に声をかけたところ、びころ・ぱんだ・ほんた、そして支援プランセンターの利用者が担当スタッフといっしょに受講。とても好評でしたので、この取り組みをぴーすで継続しつつ、広く他の事業所等へPRをしていこうと思っています。

■年間実施回数 7回

■年間利用延べ数 保護者 40名 支援者 19名

== 参加者の感想より ==

- ・初めてあい・ふぁいるを書きました。「やらないと」と思いながらなかなか機会がなく参加して良かったです。先輩お母さんの経験談などいろんな話が聞けて良かったです。
- ・みなさんが書いている様子を見て自分のペンも進みました。
- ・もっと早い段階で作成すればよかったと思いました。

3：ぴーすのあいすてーしょん〈進路相談会〉

節目、節目で悩む「障がいのある我が子の進路」。

その悩みに応じる『進路相談会』を、時期を変えて3回実施しました。

講師役は、複数の先輩保護者。それぞれ悩みながら進路を選択してきた先輩だからこそお話できる「どのように考えて、その進路を選択したか」「今、その進路先で子どもはどのように過ごしているか」等のリアルな体験をそれぞれにお話いただきました。

学齢期対象の相談会では、元堺東高校自立支援コース担当の渡邊元嗣氏にも講義していただきました。

日付	進路相談会 テーマ	参加数
4/15	幼児対象 就学相談会	11人
5/20	高校・就労進路相談会	21人
9/28	幼児対象 進路相談会	4人

■年間実施回数 3回 ■年間利用延べ数 保護者 36名

== 参加者の感想より ==

- ・小学校への漠然とした不安が少し軽減されました。その時の子どもに合った支援をしていこうと思います。
- ・支援学級の様子がよくわかってよかったです。宿題の取り組み方や行事の参加の仕方、先生との関わり方などしることができ、よかったです。
- ・渡邊先生から、心に留めておきたい言葉をたくさん聞いてよかったです。
- ・実際に受験された先輩のお母さんの話など、とても参考になりました。
- ・進路のいろいろな選択肢を教えていただいたので、これから少しずつ情報を集めたいです。



4：ぴーすのあいすてーしょん

〈幼児の保護者向け連続勉強会〉

平成15年から23年の9年間に渡って実施した『幼児の保護者向け連続勉強会』。その間、多数の保護者が参加してくれましたが、平成24年度の〈地域活動支援センターぱれっと〉の開所に伴い、ぱれっとプログラムの1つに形を変えて、不定期で同様の内容を継続することとなりました。

そして6年。常に「毎月の連続開催の復活」を願う声をたくさんいただきました。そこで、平成29年度は『ぴーすのあいすてーしょん 地域特別支援事業』で復活させることとなりました。

平成29年度は全10回毎回テーマを変えて開催しました。テーマと参加者数は以下の通りです。

日付	連続勉強会 テーマ	参加数
6/9	障害受容	17人
7/6	先輩母との交流会	13人
8/31	親子おもちゃ遊び会（福祉会館）	25人
9/14	障害特性とICF	15人
10/12	家族、きょうだい	16人
11/9	福祉・教育	13人
12/14	身辺	14人
1/18	ことば	13人
2/15	しつけ	14人
3/1	ランチ振り返り会	9人

■年間実施回数 10回

■年間参加延べ数 149名（内 子ども 6名）



== スタッフより ==

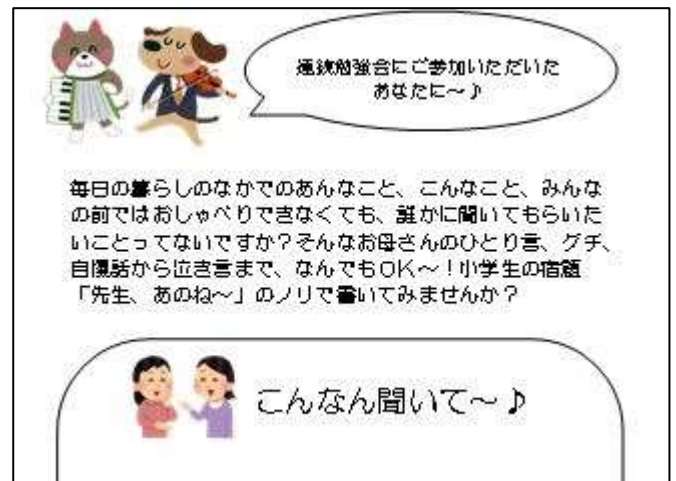
参加者は障害受容間もない幼児の保護者。毎日の子育ての中で「なんでうちだけ…」「しんどいなあ〜」と感じながら、ひとりで頑張っている保護者に、ちょっとだけ先輩である母たちが、講師として『体験談』をお届けしました。

他の子達とは違う我が子の子育てに戸惑い、迷いながら、悪戦苦闘して経験が、今、子育て真っ最中の幼児保護者の役に立つのならばと、毎回みんなで丁寧に準備し、いろんな工夫・検討をしながら、取り組みました。

またこの会で出会った参加者同士が、自然に支え合い、助け合いをする姿もありました。共感できるかけがえのない仲間が出来るのも、連続勉強会の魅力の1つです。

平成30年度は、今年度受講者もボランティアスタッフとして参加予定！ボランティアの皆さんのエンパワメントを支える場としても、ますますパワーアップしていきます！

講師は体験談のみならず、時には個別相談にも対応しました↓
個別相談対応ための工夫



== 参加者の感想より ==

- ・私にとっては、唯一障がいのある子のお母さんの話が聞ける場でした。
- ・先輩母の話を聞くことで、今できないこともできるようになるという見通しが持てるようになりました。
- ・こだわりなどがあっても、しつけなければ！と思っていた部分を、少し違う角度から見られるようになりました。
- ・子どもと一緒に笑うことが増えました。
- ・障がいを持つ子の母との交流が出来て、知識が増え、思いを共有できたことがよかったです。
- ・辛いことがあっても、今度の連続勉強会のときに聞いてみよう！とか、分かち合えるかもと思えて、安心感がありました。
- ・主人と話をする機会も増えました。

5：ぱれっと〈えんばわミーティング〉

ぱれっとには、たくさんの障がい児保護者が集まります。その障がい児の保護者の、それぞれのこれまでの経験や感性、好きなことや得意なことを、社会貢献に活かすという目的で、ぱれっとでは〈えんばわミーティング〉というプログラムを実施しています。『えんばわ』、つまり保護者という当事者の、本来持っている力を引き出し、その力を活かすという支援です。平成29年度は、回数をグッと増やしました。その内容を報告します。

〈えんばわミーティング〉には、いくつかのグループがあります。今年度新たにできたグループが『ぴあぴあ〜あい・ふあいの活用をひろめる会』です。会の組織化やセミナーの企画・広報、仲間の育成など課題が多くありました。ぱれっとと支援員のサポートのもと、チラシの作成や運営会議の持ち方を話し合うなど行いました。



また、『啓発活動グループ』の1つは、ICFや障害者差別解消法をベースに、みんなで勉強。合理的配慮の啓発につながる情報として「支援グッズを活用した暮らしについて」の情報を提供できるよう、グッズや提供内容の整備を行いました。

別の啓発活動グループは「障害特性の理解をすすめたい」という目的で、小学生・中学生向けの啓発スライド『発達障害ってなあに？』を作成。堺市内小中学校において、ぴあ講師として啓発授業に参加するに至りました。

参加者からは「自分にもできるという自信と、本来の積極的な自分を取り戻すことが出来ました。」などの感想をいただきました。

■年間実施回数 61回 ■年間参加延べ数 237名

5：ぱれっと〈小さなセミナー〉

ぴーす設立当初から継続している『ぴーすの小セミ』。専門家が話す「大きな講演会」ではなく、身近なテーマで、「暮らしに即・つながる勉強」をするための、少人数のセミナーです。企画から本番の講師まで、ぴーすの「障がい児母親スタッフ」と「ボランティアのぴあ講師」が担っています。

少人数のセミナーのため、「同じ悩みを持つ参加者同士で、和気あいあいと話しやすいムードがいい」と好評をいただいています。また、スケジュールの使い方ワークショップなど、実際に支援グッズの使い方を学ぶことが出来るのも人気のプログラムとなっています。

平成29年度は、主に以下の3種類を実施しました。

- ・障害特性を知って、合理的配慮を考える〜特性理解シリーズ
- ・スケジュールなど、支援グッズワークショップ
- ・保護者の座談会

特性理解シリーズは、毎年人気のテーマで、熱心に参加される姿が印象的です。例えば、「気になる行動〜パニック・多動・自傷・こだわり」の回は、サブタイトルの問題だけでなく、不登校やコミュニケーション、切り替えなど多岐にわたる質問が多く寄せられました。

日付	小さなセミナー テーマ	参加数
5/30	語ろう！思春期の悩み ～先輩をむかえて～	5人
6/15	「子ども紹介プリント」をつくってみよう	4人
7/11	学齢期進路座談会	8人
9/7	言葉の発達とコミュニケーション	11人
9/21	スケジュールの使い方ワークショップ	6人
11/16	気になる行動 パニック、多動、自傷、こだわり	11人
11/21	学校の先生との付き合い方	6人
12/1	本人も家族も楽になる「家の中の工夫」	16人
12/5	語ろう！思春期の悩み ～先輩をむかえて～	1人
12/16	どうしてる？ 発達障害のある子どもの学習	3人

〈ワークショップ〉は、ただ支援グッズを作るだけでなく、使い方のコツなどをお伝えします。「スケジュールの使い方ワークショップ」は大変反響が大きく、キャンセル待ちの方も出ました。

〈座談会〉じっくり話したい方の参加が多く、「進路座談会」では具体的な話が聞けて好評でした。

■年間実施回数 10回 ■年間参加延べ数 65名

== 参加者の感想より ==

★「語ろう！思春期の悩み」

思春期の異性への関心、学習、からだの変化、反抗期…本当にいろいろ聞いてうれしかったです。みなさん、がんばっているな。パワーもらえました。

★「子ども紹介プリント製作会」

受け取る相手の目線も考えて、作成することが大事だと思いました。今回紹介プリントを作るために、本人と話をし、改めて自分の子どもが頑張っていると、思い直しました。

★「言葉の発達とコミュニケーション」

コミュニケーション障害と言葉の遅れが違うものだということがわかりました。普段の生活の中でコミュニケーションを高めていくことができるのがわかってとてもよかったです。

★「スケジュールの使い方ワークショップ」

すべきことをしっかりしてほしい、という思いで、楽しみを入れることをしていませんでした。

「スケジュールは本人のもの」という考えはあまりなかったので、本人が楽しんで進めるスケジュール作りを目指し、がんばってみたいと思います。

★「気になる行動～パニック、多動、自傷、こだわり」

先輩方のお話をたくさんお聞きして、今の子どもに対する自分の接し方、考え方を改めて見直しました。なかなか話をできる人もいないので、気持ちが楽になりました。

★「学校の先生との付き合い方」に参加のお母さん

子どもと私が先生と良い関係を築けるように先生の現状を配慮しつつ積極的に関わっていけるよう頑張りたいです。

先輩の子育て経験から生きた助言をいただきとても頭の中が整理され「来てよかったな」と強く思いました。

★「快適なわが家づくり」に参加のお母さん

自分の家でもあるあるの話から、片付けの手順、考え方が変わりました。自分の理想の暮らしを考える、ということが一番ハッとしました。

★「「どうしてる？発達障がいのある子どもの学習」」

お話たくさん聞けて良かったです。かまえずに、子どもの良いところを伸ばしていこうと思います。

★「「学齢期進路座談会」」

具体的なお話が聞けたので大満足です。実際に通っておられるお話、カリキュラムのことなど勉強になりました。今からできることを考え、本人が望むことをかなえられるよう（本人が決められるよう）母も準備します。



■■■■ 保護者セミナー こぼれ話 ■■■■

“びあ講師”によるエンパワメント

びーすのセミナーは、講師を先輩の母たち“びあ講師”が担うことが多いです。これは、びーすのセミナーの魅力の一つです。

子どもの年齢が少しだけ先輩であることが大事です。その理由は、親近感と共感性。後輩の悩みや苦しさは「ついこの間、自分が悩んでいたこと」で、自然に共感でき、後輩も「少し頑張れば、あんな風になれるかも」と親近感を感じることができるからです。

“仲間同士”によるエンパワメント

今年度は、この“びあ講師”が担い手となり、平成24年度で途絶えていた『連続勉強会』が復活！

参加者同士の交流促進を目的にグループトークなどを行うと「あ～自分だけじゃない。同じ思いをしている人がいる」と気づき、少し元気がでます。そして、参加者同士が、自然に支え合い、助け合いをする姿が見られます。共感できるかけがえのない仲間が出来るのも、びーすのセミナーの魅力の一つです。

■■ 相談に対応するもの ■■

ぴーすに相談に来られる方の多くは、お子さんの発達や成長に悩む保護者です。

初めてぴーすに相談に来られた方に、ぴーすのことをどのように知ったかを伺うと、学校・幼稚園保育所・区役所の保健センターなど『その子に関わる関係機関』からの紹介が一番多いです。また、区役所や親子広場の配架コーナー、保護者同士の口コミなどで教えてもらったという方も多数おられます。ここ数年は「HPやSNSを見て」「ぼっしえの支援グッズを見に来た流れで相談に」という方も増えておられます。

ぴーすに相談される方のお子さんの年齢、悩んでいる内容は、多岐にわたります。あれこれ悩んでいることを、ただ話をするだけで「スッキリした」という方もいますが、相談後に福祉サービスの利用が必要な場合や、違う問題がある場合もあります。その場合は、ぴーす内での連携はもちろんのこと、関係機関や他の事業所へつないだりして解決していきます。

つなげる先としては、母が勉強するためのセミナーを紹介したり、母の暮らし方をチェンジするためにボランティア活動へつないだりということもあります。



相談から始まり、いろんな『次』につながっていく・・・。
時々、久しぶりに訪ねてこられた方が「ぴーす以外にも、母も子も、安心して過ごせる場所（仲間）ができました！」という嬉しい報告をしてくださることもあります。

ぴーすの相談対応の基本は、「ぴーすの扉は、常にオープン」「共感」「安心できる対応」「ぴーすですら、次へつなげる」です。そのため、ぴーすの入り口から入られても、どんな内容の悩みでも、ぴーすとしてきちんと受け止め、出来る限りの対応するため、「すべての事業・活動で、受けている相談を共有する」仕組みになっています。

平成29年度も多様なニーズに複数の事業が連携して柔軟な対応ができました。相談対応について報告します。

▼△ 福祉サービスを利用していないケース ▼△

1：ぴーすのあい・すてーしょんによる相談対応

堺市委託事業である〈あい・すてーしょん〉。

平成29年度は、7つの法人が受託しましたが、その具体的内容は、法人それぞれに独自の形態で実施されています。

ぴーすのあい・すてーしょんは平成26年度受託開始から4年目。「相談対応」を基本とし、来所していただいたの相談、もしくは必要に応じて家庭訪問などを実施しています。

あい・すてーしょんの対象者は、障がいや発達に不安のある児童（0～18歳）のうち、福祉サービス（障害児通所支援や障害福祉サービス等）を利用しないお子さんです。

障がいや発達に不安があっても、サービス利用をしていないお子さんは、各年齢にたくさんいます。

例えば幼児期は、発達の遅れが発見されてもすぐにサービス利用とはならない場合が多いです。幼稚園などに入園してから、他児との違いが出始め、悩む場合もあります。

学齢期になると「障がいや病気があるけど、放課後デイやヘルパーの必要はない。でも悩みはいろいろあって困っている。」という保護者も多くいます。

そんな「サービス利用をしていないケース」、平成29年度のぴーすは、あい・すてーしょんで相談対応をしました。

== 相談員より ==

ぴーすでは、平成29年度も障がい受容に悩むお母さんの心のケア、福祉サービス利用に至るまでのサポート、関係機関の紹介や連携、ばれっとが主催する保護者向けセミナー等の案内、ぼっしえの支援グッズなども利用した具体的な支援の紹介などを実施しました。いずれも、保護者のエンパワメントが高まる支援を心がけました。

また、同時に受託している『地域支援特別事業』では、「あい・ふぁいる活用セミナー、進路相談会、連続勉強会」を行いました。その受講がきっかけで、ぴあ相談が開始され、内容によってはあいすでの個別相談として専門的に対応をするという「ぴーす内の連携」を多数行いました。反対に、あいすでの相談から、あい・ふぁいる活用セミナーなどの参加につながったケースも多くありました。

■年間来所相談延べ数：184件

■年間訪問相談延べ数：6件



- ▼△ 福祉サービスを利用しているケース ▼△
- ▼△ ぴーすとサービス利用の契約をしているケース ▼△
- 1：ぴーすの支援プランセンター（略して、ぴーセン）

による 指定相談支援（障害児相談、特定計画相談）

●指定相談支援とは

- ・利用者との契約で実施され、その利用者がサービス利用を継続される間、ずっとその生活を見守り支援。
- ・利用者の希望する暮らしを実現させるべく、アセスメントを行い、必要なサービス等を利用する計画案を作成する。
- ・計画案作成後は、本人・家族に合う事業所を探すなどの事業所調整。その利用状況を確認するために訪問をして、モニタリングを実施する。
- ・複数の事業所等が統一した支援が受けられるようサービス担当者会議を開催する。

ぴーすの支援プランセンター（略して、ぴーセン）は「中立的な立場」「常に、当事者に寄り添って、当事者の目線」を大切にしています。指定相談支援を平成 24 年度に開始し、今年で 6 年目です。

開始 2 年で利用契約が多数となり、一時期「全ての依頼を受ける事ができない」状況でした。それを改善すべく、相談支援を補助する相談員の増員などとして、新規依頼を少しずつ対応できるよう工夫を行い、平成 29 年度は新規依頼の受け入れを再開。少しずつですが、利用者増員となっています。

●障害児相談の傾向

お子さんの成長に伴い、様々な問題行動が出るなどで、家庭内でどう対応したらよいかの相談、特に思春期の子どもに対する悩みの相談が多い傾向がありました。ぴーセンは

- ・利用できる社会資源の紹介
- ・地域活動支援センターぱれっとはじめぴーす内の各種相談体制との連携
- ・サービス担当者会議を開催し、学校を含め、外部関係事業所との連携などを行いました。

保護者の気持ちに寄り添いつつ、ご本人が安心できる環境の調整をするように心がけています。

●障害児相談から特定計画相談へ

お子さんの成長に伴い、利用者が成人になりつつあります。ぴーセンは障害児相談を主としているため、成人に特化した事業所へ円滑につないでいけるように努力しています。



保護者は慣れ親しんだぴーセンから離れることに不安を覚えている印象を受けていますが、成人になったから支援を打ち切るという形ではなく、保護者の気持ちに寄り添いつつ、成人の専門性が高い次の支援者につないでいく（ぴーセンの卒業）というイメージを大切にしていきたいと思います。

ぴーセンが主とする障害児相談にフォーカスするためには、この卒業が不可欠です。そのためには、信頼できる成人相談事業所と連携していくことが重要と考えています。

平成 29 年度の相談対応は以下のとおりです。

■年間相談件数	2659 件
■契約実人数	144 名（内、新規 3 名）
■障害児相談	計画案作成件数…104 件 モニタリング件数…493 件
■特定計画相談	計画案作成件数…85 件 モニタリング件数…117 件

●研修

相談専門支援員・相談員それぞれが、専門知識をより深めるために、内部研修を積極的に行い、外部研修に足を運びました。

また学んできた内容は、ぴーセンの全相談員に適宜フィードバックして内容を共有しました。

障害福祉サービス制度は変化のスピードが早いため、新しい知識を常に取り入れる姿勢を大切にしています。



▼△ 福祉サービスを利用しているケース ▼△
▼△ ぴーすとサービス利用の契約をしているケース ▼△

2：ぴーすの児童デイによる 利用者への相談対応

ぱんだ・ぼんた・ぴころの3事業所においても、相談対応を大切にしています。支援計画説明などの面談時はもちろんのこと、毎月利用者へ配布しているニュースで「いつでも相談可能」をお知らせし、ご要望に応じ、事業所内相談や家庭訪問相談を実施しました。

日頃の様子を見ているスタッフだからこそ『相談対応』は、保護者の「日常生活として、困っていること」や「どこに相談すればよいかわからないこと」などを聞き取ることができます。デイ事業所で返答できることはお伝えしながら、デイ事業所では解決が難しいこと・わからないことは、利用者が契約している相談支援事業所と連携したり、ぴーす内の他事業所につないだりして、解決にあたりました。

平成29年度の相談対応は、3事業所合わせ、以下のとおりです。

■年間相談件数	350件	■相談実人数	119件
---------	------	--------	------

▼楽々かあさんHPより 声掛け変換表

<https://www.rakurakumom.com/>

before	↑ ↓ 声	after	memo
いい加減にしないっ!	→	あと何分で終われそう?	タイマー併用
ちょっと待って!	→	あと〇分(秒)だけ待ってね(〜)	具体的な数字など
うるさい!	→	声を『これくらい』にしてくれる?	実例
走るな!	→	声をボリューム2にしてくれる?	スケール、TVの音等
急ない!	→	ままって!	具体的に
急ないからダメ!	→	お母さん、ケガが心配だなあ	気持ちを伝える
早く支度しなさい!	→	もしケガしたら、今日は出かけられないけど、それでも大丈夫?	結果の予測を伝える
早くお風呂出なさい!	→	5分で終われば、あと10分遊べるよ	メリットを伝える
早くおフロ出なさい!	→	夕飯はカラアゲだよ	興味のある情報
あー、もう、だから言ったでしょ!!?	→	どうすれば良かったんだっけ?	問いかけ
何度言ったら分かるのっ!	→	どうしたらいいと思う?	具体案を促す
(こぼしたら) 捨って!	→	エンジン止めた! 掃まえてくれる?	興味を引く
(失敗して) あーあ、もう!!	→	そうきんで拭けばOKだよ	対処法を伝える
〇太郎ー! 〇太郎ー!! 〇太郎ー!!!	→	(そばまで行って気づかせる)	肩を軽く叩く、など
もう! いつになったら宿題やるのっ!!	→	宿題、何時からやる予定?	
	→	〇時までなら、お母さん手伝えるよ	ソソ・トーク
	→	〇時まで終われば! ポイントおまけ	
ほら!! お友だち待ってるでしょ!?	→	あと何回数えたら終われそう?	ブランコなど
もう! 早く帰るよ!!	→	あと3回だけ待ってるね	指を覚せる一折る
(兄弟を叩くなど) やめなさい!!!	→	(終わったら) やめられたね。ありがと	兄弟は別にケア
(転んで) 痛くない、痛くない、痛くない!!	→	痛かったね(〜)	共感すれば早く治まる
(イヤなど) そんなこと言ったらダメ!	→	そうか、イヤなんだね	感情は否定しない
このワランデン! もう知らんっ!	→	どうすれば分かるかお母さんに教えて	分からなければ聞く
雨なんか降らんよ〜、大丈夫、大丈夫	→	雨は〇%の確率だけど、その時は〇〇すればいいからね	変更の可能性と対処を伝える
人のメーワクになるからやめなさい!	→	音が大きいと聴き取れる人もいるから、病院ではゲームの音OFFにしてね	迷惑の具体的な理由とやることの指示
〇太郎!!! (バカハツ!)	→	(事柄に) 今、カンニングクロ2つ目。次やったらバカハツするよ	(コミカルに) 事柄警告を与える
何やってんのっ! バカダレ!	→	さすが、天才! 一緒に片付けようか	天才のしりぬぐい

▼△ 福祉サービスを利用しているケース ▼△
▼△ 他事業所と契約をしているケース ▼△

1：地域活動支援センターぱれっとによる相談対応

福祉サービスをすでに利用していて(受給者証を取得している子)で、ぴーす以外の事業所と契約をされている場合。その保護者からの相談は、ぱれっとの『予約来所相談』で対応しました。

昨年度に引き続き平成29年度も、日常的な悩みに常に応じ、利用者への寄り添いをベースに不安が解消できるよう、特に保護者のエンパワメントが高まるよう心がけて、対応しました。

また、ぱれっとだけでは解決できない問題が出た時は、利用者の同意を得た上で、法人内外の関係機関・団体と連携「チームで解決」できるよう対応しました。

学齢期の子ども保護者からは、「行きしぶり」「思春期の対応」「学校との連携」「学習の悩み」「本人への障害告知」などの相談がありました。幼児期の子ども保護者からは、「就学に向けて」「言葉の遅れ」「困った行動への具体的支援」などが多い傾向にありました。

■年間相談数：402件	■利用実人数 101名
-------------	-------------

ぴーす全体の 相談対応 の件数		
担当事業	相談件数	相談実人数
あい・すてーしょん	190件	88名
ぱれっと：来所相談	402件	101名
ぴーセン：相談支援	2659件	144名
デイの3事業所	350件	119名
合計	3601件	452名

***** コラム『声掛け変換表』 *****
 「困った行動への具体的支援」の相談対応では、お子さんの要求・拒否・注意喚起の仕方についてお伺いし、間違ったコミュニケーションになっていないかを確認します。実のところ問題の多くは、大人の声掛けが『走るな!』など否定形で、本人には『どうしたらいいか』が伝わっていないことが原因になっています。つまり、大人のコミュニケーション力の問題ですね。
 そこで、絵カードなどの活用の前に、まずは左の『声掛け変換表』のご紹介をしています。具体的で肯定的、そして画像が浮かぶような視覚的な言葉を使った声掛けは、わかりやすく、好ましい行動の発現につながります。
 これは、家族・親戚、地域、園・学校の先生とのお付き合いにおいても同じかもしれませんね♪ご活用下さい!

▼△ 保護者以外から相談されるケース ▼△

1：ぴーすのあい・すてーしょん

による『施設支援指導』での相談対応

学校・保育所・幼稚園というお子さんが所属している施設をはじめ、デイサービス事業所や相談支援事業所からも、いろんな相談が入ります。その相談に対応できるのが、あい・すてーしょんの『施設支援』です。

ぴーすの『施設支援』は、以前より「対応が困難なケース」や「関係機関調整が難しいケース」などに対応していて、担当は、あいすて事業管理者である理事長が、ほぼ担っていました。平成29年度は、新しい訪問支援員として、臨床発達心理士である金井孝明（元：百舌鳥支援学校 特別支援教育コーディネーター）が入職したことを受け、施設支援で行う内容の幅を広げ、以下のような内容で実施しました。

H28 実施内容

- ・保護者、家庭状況を含めたアセスメントのヘルプ
- ・本人に関わる担当者を集めたケースカンファの開催や参加
- ・複合的問題等があるケースの関係機関調整
- ・保護者とのコミュニケーションヘルプ

H29 に追加した内容

- ・集団生活に適應できるよう、心身の状況等に応じた指導・支援をヘルプ
- ・障害特性の理解等に関する研修への講師派遣

追加した内容は金井訪問支援員が担当。その専門性を求め、年度当初から小学校等より「子どもの状態を専門的に知りたい」などの依頼が多数あり、一年間で33校（幼稚園1園、保育所1園、小学校33校、中学校3校、支援学校1校）実人数 153名 延べ数 612件（個人支援）の訪問となりました。

特徴としては、小学1～4年生の依頼が多く、小学1・2年生の場合は学校での集団生活や学習活動でのつまずきなどに気づいて、3・4年生は学習内容が質的にかわってくる高学年になる前に学習面でのつまずきに関して、できるだけ早く学校が対応しようという思いからの依頼でした。

また、相談ケースの68%が通常学級に所属する子どもだったのも特徴の1つです。通常学級においても、何らかの知的能力や認知能力の特性が疑われる児童生徒への理解と支援の方法について、関心が高まってきていると思われます。1つの学

校への訪問回数が10回以上になったのは、5校ありました。一人の子の相談をきっかけに、他の子どもと広がっていきました。

一方、理事長：小田が担当する「対応困難なケースなど」は、その依頼元が広がりました。平成29年度は、小学校やサービス事業所からの依頼が増え、ケースカンファレンスに参加することなどが多かったです。ケース数としては25件。ケースカンファ参加や保護者対応などを行った回数は70回でした。

難しいケースに関わる支援者・機関で連携して解決していくことの重要性を改めて感じた一年でした。課題としては、施設支援の担い手が限られていること。課題解決のため、ぴーす内の人材育成に力を注いでいきたいと思っています。

他にも、事業所職員向けセミナー研修や保護者向け学習会、子ども向け障害理解セミナー等の講師派遣にも対応し、実施いたしました。※実施詳細は、別表に記載（35ページ）

■年間相談対応数 404件 ■利用施設数 72か所

講師派遣はくむ

1：保育所等訪問支援による 利用者への相談対応

保育所等訪問支援は児童福祉法に基づくサービスで、保育所等の教育・保育機関の現場に入り込んで行う発達支援事業です。保護者からの依頼に基づき実施します。最大の目的は、保育所等訪問支援を通して、保護者と訪問先の保育所等の距離が縮まり、子どもの成長や発達を共に喜びあえるようになることで、最終的には子どもが安心・安全に過ごせる環境になることです。

保護者・保育所等の施設双方からのニーズを把握したうえで、必要であれば発達検査等を行い（検査は金井が担当）、保護者・訪問先との信頼関係を築くことに努めました。

■相談実数：5名 ■相談施設数：3か所（小学校2校、支

援学校1校）

■相談延べ件数：72件

（来所 27件、訪問（モニタリング訪問含む）45件）

ぴーす全体の 相談対応 の件数		
担当事業	相談件数	相談施設数
あいすて：施設支援	404件	72か所
保育所等訪問支援	72件	3か所
合計	476件	75か所

■■ 主に、来所する方への 情報提供 ■■

1：生活支援グッズの店 ぽっしえ

ぽっしえは、来店する方の悩みに寄り添い、暮らしベースの具体的な支援を一緒に考えるお店。ぴーすの大切な『相談窓口』の1つであり、利用者には敷居の低い入口であり、居心地のよい気楽な場所になっています。

店舗を構えての運営開始6年目となる平成29年度は、新しいテーブルを購入しました。丸みを帯びた大きなテーブルはぽっしえ中央に。相談をしたり、じっくり支援グッズを試すことの出来る落ち着ける場所となっています。

ぽっしえに来られる皆さんが一番喜ばれるのは、実際のグッズ活用についての話。障がいのある子どもの暮らしが楽になる、家族も楽になる、そんな経験をしている「障がい児母親や支援者の体験談」です！

平成29年度は、ぽっしえに定期的に集うユーザーボランティアを募集し、おしゃべり会のような集まりをすることになりました。現在は、4名のボランティアが週に一度を目安に集まり、店舗整理やポップの作成をしながら、来店する利用者とおしゃべりをするようになっていきます。次年度以降も、さらにぽっしえで活躍していただけるボランティアを増員し、幅広い体験談が話せる場にしていきたいと思っています。

【ネットショップでの販売】<http://ps-poche.shop-pro.jp/>
 ぴーすでは「広く支援グッズを知ってもらい・いつでも便利に購入できるシステム作り」を課題として、インターネットショップを平成27年4月1日より開始しています。

今年度も引き続きたくさんの方にご利用いただき、全国津々浦々から閲覧していただけるようになりました。

「実店舗がある、店長の顔が分かるから安心」という声や、ネット注文後に「実際に行って、お話したかった。」と来店されるケースもありました。

平成29年度の利用数等は、以下のとおりです。

■年間利用延べ 815人（ネットショップ利用者含む）

■年間販売件数 2043件

<事例紹介>

●チェーンブランケットのお試し

ぽっしえではラーゴム・ジャパン株式会社様のチェーンブランケットをお試しいただくことが出来ます。適度な重みがあり、

まるでハグされているような感覚で眠ることが出来、長年不眠で悩んできた人にも大変好評の商品です。ADHD、自閉スペクトラム症の人にも有効で、睡眠障害が軽減した、歯科治療で活用し、落ち着いて受診出来るようになったなどの報告を聞いています。ぽっしえでも実際に沢山の方にお試しいただいています。「おおお～！結構重い。でもなんか落ち着くー♪」と評判です。是非ご来所の際はお試しくださいね！



●フィジットキューブ

仕事中や勉強中には、無意識のうちにペン回しやボールペンのノック、貧乏ゆすり等をしていませんか？そんなときはこのフィジットキューブの出番！各面に設けられたボタンやスイッチをいじることで、嫌な刺激から気を紛らわせたり、集中力を高める効果があるそうです。実際にぽっしえでもADHDを



持つお子さんがこちらを持つようになり、授業中も落ち着いて過ごせるようになったと聞いています。保護者の方は「こんなグッズがあったなんて！もっと早く知りたかった～」とおっしゃっていました。

<情報提供：順不同>

- ・「自閉症・発達障害の人に伝わりやすい声かけ」
 ※えじそんくらぶ高山恵子さんより
- ・「凸凹変換表&声掛け変換表」
 ※発達障害3きょうだいを育てる「楽々かあさん」より
- ・チェーンブランケット

- ・AURAL SONIC 株式会社（静かなボードちゃん）
- ・兵庫県立福祉のまちづくり研究所（知的障害者 暮らしのアイデアブック）
- ・e=AT 利用促進協会（障害のある子どもたちのための携帯情報端末を利用した学習支援マニュアル）
- ・株式会社おめめどう（トータルセミナー等各種セミナー／各種資料・有料ネットサービス）など

〈ぼっしゅ出張販売〉

来店が難しい方にも、いろいろな支援グッズを「見て・触って・知って」もらえるように、『出張販売』をしています。

平成 29 年度の出店は、以下のとおりです。

- ・4/2「Blue Challenge Minami-Osaka2017」に出店
- ・6/22 堺市手をつなぐ育成会研修会に出店
- ・7/8「チームで取り組む発達障がい支援実践講座」に協力
- ・10/7「国際医療福祉大学学園祭『潮風祭』」に協力
- ・11/2「すごい道具マルシェ」に出店
- ・12/2「和歌山県立紀北支援学校支援機器展」に出店
- ・3/25「なんとカンファレンス 2018 春」に出店

平成 29 年度はぼっしゅスタッフだけではなく、主催者側の主に地元保護者の方にも販売協力を多くいただけた 1 年でした。そうすることで支援グッズのある暮らしを出張先に根付かせることが出来たのは大きな成果だったと思っています。

2：ぱれっとく展示・啓発掲示板コーナー〉

「ぱれっと待合ホール」に『掲示板』を設置し、シーズンごとにテーマを変えて「障がいに関する掲示」。同時に、啓発用等の持ち帰り用の資料も用意しています。最近では、放課後等デイサービスや成人通所サービス事業所のパンフレットが充実しています。パンフレットを持ち帰った方が後日その事業所に連絡をし、実際の利用につながった・・・というエピソードもありました。

「地域活動支援センター 紹介パネル展」が堺市役所で行われています。今年で 5 回目です。ぱれっとの今年度のパネルは、ぴーすで活動しているボランティア有志が主体となって、作成したものです。ぱれっとの多様な活動を分かりやすく紹介。さらに、折り紙を切った繊細な飾りつけがあり、女子力の高い、華やかで素敵なパネルになりました。「パネル展」終了後は、共用玄関ホールのベンチコーナーに常設しています。



保護者の方だけでなく、実はおもちゃ広場に遊びに来てくれた子どもたちもよく見てくれていて、指をさしながら、ぱれっとの活動とパネルが一緒だと教えてくれます。ぱれっとの活動が一目で分かると好評です。

とても効果的にぱれっとの活動を PR することが出来ました。

3：ぱれっとく図書/資料（閲覧貸出）情報コーナー〉

ぱれっとには、障がいに関する書籍を誰でも自由に閲覧、借りることができるコーナーがあります。

発達障がいや知的障がいについて学ぶ書籍を中心に、専門的なものからマンガまで各種取り揃えています。

他にも、関係団体の会報誌や雑誌、行政などで作成された障害に関する啓発物などもご自由にご覧いただけます。

目の前にいる子どもの障害を理解したい、支援方法について学びたい・・・そんな保護者や支援者を応援するコーナーです。

ネットではたくさんの障害関係の書籍の紹介レビューがあ

りますが、やはり実際に中味をみて、自分にとって分かりやすいか、ニーズにあってるか確かめたいものです。それができないため、購入に至らず、もしかすると良い情報に出会えなかったかもしれません。そこで、定評のある書籍を実際に購入し、貸し出すことで、保護者のエンパワメントを支えることを目的としています。今年度も引き続き、たくさんの方にご利用いただきました。



平成 29 年度は、保護者支援者共に幼児・学齢期低学年向けの書籍の貸し出しが多い傾向にありました。具体的には「発達障害の子どもの心と行動がわかる本」「発達障害の子のびのび暮らせる生活サポートブック幼児編」です。また、就学に向けて特化した書籍「写真でわかるはじめての

小学校生活」は、保護者のみならず、本人にもとてもわかりやすく小学校生活がイメージでき安心につながると好評でした！

＝＝＝担当者より＝＝＝

書籍だけではなく、実は DVD も借りられることを皆さんご存知でしょうか？

購入すると 4000 円以上する DVD もあり、大変オススメです！私たちスタッフのオススメは、昨年お亡くなりになりました佐々木正美先生が登場する「親と教師のための自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～」3 部作です。具体的に学校などで行われている構造化を映像で見ることが出来、とてもわかりやすいです。

支援者に障害特性に応じた具体的な支援について、伝えたいときに最適なツールです。ぴーすでも職員に勧めています。



■■ 主に、インターネットなどでの 情報提供 ■■

障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。

具体的には、以下の3つの方法で行っています。

4：メールニュース<ふぁにい>

火曜～土曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信。生活に密着した情報をタイムリーに届けることができる「欲しい情報が欲しい時に手に入る」ニュースです。

平成 29 年度は、大々的なりリニューアルに着手！平成 30 年度の本格的リリニューアルにむけて、3 月にはプレリリースを慣行。これまでのテキストベースの情報だけでなく、画像や色文字などを多用使ったより情報がわかりやすいニュースになり、利用者の皆様からも好評です。

来年度は本格リリースとともに、無料会員の募集、スタッフコラムや事業所への取材など、ぴーすならではのニュースをお届けします！

■年間配信数 292 件 (月平均配信数 24 件)

＝＝ 記事内容 (抜粋) ＝＝

<事業所情報>

えんばわめんと堺/ES、チャレンジ・クラブ、み・らいず・みーと・なかもす

<セミナー情報>

1日5分 教室で使えるコグトレ 社会面のトレーニング
自閉症セミナー2017 ～ライフステージを見据えた支援～
発達障害児の生活デザインセミナー

<メディア情報>

NHK「発達障害プロジェクト」、新聞記事「発達障がいの少年が人気珈琲焙煎士になるまでの道のり」

<おすすめグッズ>

かむペンダント、ポリエステル折り紙「からふいるおりがみ」

<ぴーすからのお知らせ>

あい・ふぁいる活用セミナーお知らせ、ぴーすのセミナーなど企画もの情報

<福祉情報>

堺市ヘルプカード、わくわくスタート堺っ子

<イベント・余暇>

アビリンピックおおさか、淡路島に OPEN！ニジゲンノモリ、大阪科学技術館 リニューアルオープン



== 担当者より ==

最近よく、デイ事業所から「事業所の紹介」の配信依頼を受けることがあります。依頼を受ける際にヒアリングすると、事業所支援者自身も実は『ふぁにい』で配信されているような情報を必要とされていることがわかりました。

来年度は、保護者の方だけではなく、事業所等の支援者にも『ふぁにい』のPRをしていきたいと思えます

▼旧ふぁにい



▼リニューアル後のふぁにい



■実績：年間配信数 292 件（月平均配信数 24 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配信本数	25	23	28	25	27	27	27	22	21	20	25	22	292
ぴーすお知らせ	1	1	0	1	4	0	3	2	2	2	3	1	20
ぴーすセミナー	3	3	2	2	4	2	6	2	1	0	2	3	30
福祉情報	2	6	1	2	1	3	1	1	0	0	0	1	18
事業所情報	2	0	4	1	2	3	1	3	1	1	1	0	19
イベント・余暇	5	5	5	8	10	4	5	2	6	4	5	3	62
セミナー情報	4	3	9	3	2	7	5	7	7	9	9	8	73
メディア情報	7	2	5	2	2	5	4	4	3	3	3	4	44
おすすめグッズ	1	3	2	6	2	3	2	1	1	1	2	2	26

5：ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>

ぴーすへ電話をくださった方にその経緯をお訪ねすると、「ネット検索でHPを見つけ、電話しました。」との答えを頂くことがたびたびあります。HPは『ぴーすとの出会い』、最初の情報提供の場として、重要な媒体です。



しかしながら、毎年の「事業内容変更等」に更新が追いついておらず、不正確さと不十分さが課題を抱えています。

これはブログ等にも同様の問題があります。ブログは、本来なら「ぴーす内の動きをタイムリーにアップする」ものなのですが、それが遅れがちです。またアップ数の多い活動・少ない事業など、ぴーす全体として内容のバランスもとれていないことも課題でした。

そこで平成29年度はタイムリーさを必要とする利用者の活動の様子などはフェイスブックの活用し、じっくりと報告したいワークショップの告知や報告などはブログを中心に、それぞれの利点を活かした活用を積極的に行っていました。

6：ぴーすのブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>

ブログで「ぴーす事業・活動の様子」などを紹介。平成29年度はを下記のように配信しました。

■年間アップ数 98本



7：ぴーすのフェイスブックページ

平成29年度「ぴーすのフェイスブックページ」も他団体とのつながりを深められた1年でした。一方的な情報発信に留まらず、双方向、時には他団体同士をつなぐ架け橋の役割

も担うことが出来ました。平成30年度はさらに多くの方と繋がっていただけるように、情報発信・収集・近況報告を活発に行っていきたいと思えます。

■年間アップ数

12本



8：ぼっしえのフェイスブックページ

新商品やショーケース更新などの店舗情報に加え、イベントやカンファレンスなど参加情報なども積極的に更新した1年でした。おかげさまで多くの方にぼっしえを知ってもらえることが出来ました。■年間アップ数 35本



9：ぴーすの児童デイのフェイスブック

平成29年度はこれまでのぴーす、ぼっしえに加え、「ぴーすの児童デイのフェイスブック」を作成しました。普段なかなか見ることのできないデイ利用中の様子を、保護者にタイムリーにお届けすることが出来ました。保護者からは「デイであったことを自宅に帰ってから話してくれても、なかなか上手く伝わらず、親子でモヤモヤしましたが、フェイスブックで写真を一緒に見ながらだとわかりやすく、会話も弾みました。」などの感想もあり、大変好評でした。■年間アップ数 88本



ぴーすの活動の中で、大切なものの1つが「啓発」です。障がいのある子どもたちの『今、そして将来』をともに生きてくださる皆さんに、子どもたちの魅力・ともに生きる幸せを伝えるべく、講演などへの講師派遣を行っています。

また、支援者&当事者の両方の顔をもつ立場を生かして、さまざまな機関との連携、会議への参加も行っていきます。

■■ 講演などへ、講師を派遣したもの ■■

ぴーすって「母親だから」の当事者性・共感性が豊かであり、また「母親だけど」常に新しい知識を学び、必要な専門知識と支援力で具体的に支援を実行している集団です。この「母親だから」と「母親だけど」の両方があることが、ぴーすの魅力だと思っています。そしてそれを元に、自分たちの暮らしを伝える・表現することは、ぴーすの大切な活動と位置付けています。

法人設立以来、毎年各地よりさまざまな依頼を受け、講師派遣を行ってきました。が、常に課題となっていたのは、講師を担うのが理事長（小田）と副理事長（山本明美）の2名に限定されていること。

そこで、平成 28 年度から 2 名の講師養成をスタート。経験

を増やしていき、平成 29 年度は新人講師だけで派遣することもありました。

また、平成 29 年度は長年支援学校勤務をしていた先生が、定年後職員として入職。豊富な経験を活かし、堺市のみならず他市、時には他府県にも講師として派遣。堺市においては、あいすてーしょんの施設支援を利用での「学校やデイ事業所からの研修依頼」もさらに増え、定期的な研修として年間計画を立てて派遣することも多くありました。



平成 29 年度の実施内容は以下のとおりです。

▼あい・すてーしょんで、講師派遣をしたもの

事業所等	派遣日	対象	テーマ	派遣職員
あいこども園北花田	6月29日	支援者	「環境設定、子どもたちへの関りや声掛け、トーン」	金井
登美丘南小学校	6月7日	支援者	「行動面や学習面で困難の見られる通常の学級在籍児童の指導について」	金井
金岡南小学校	6月7日	支援者	「障がいについて考えよう～みんなちがって、みんないい～」	小田・田中 福島
深井小学校PTA	7月4日	保護者	「思春期に向けての子育てでの留意点」	金井
赤坂台小学校	7月25日	支援者	「子どもたちの見せる行動と安全感／安心感」	金井
錦小学校	7月26日	支援者	「読み書きでのつまづきの理解と指導や支援の考え方」	金井
金岡小学校	7月27日	支援者	「子どもたちの見せる行動と安全感／安心感」	金井
市小学校	8月22日	支援者	「子どもが安心して参加できる授業、自信を持って参加できる授業のあり方」	金井
英彰小学校	8月30日	支援者	「子どもたちの見せる行動と安全感／安心感」	金井
金岡南小学校	10月27日	小学生	「障がいについて考えよう～みんなちがって、みんないい～」	田中・福島
深井小学校支援学級	11月17日	保護者	先輩保護者による体験談	福島・ぴあ講師
八上小学校	1月18日	支援者	子どもたちに見せる行動と安全感／安心感	金井

事業所等	派遣日	対象	テーマ	派遣職員
八田壮小学校	1月23日	支援者	子どもたちに見せる行動と安全感／安心感	金井
英彰小学校	10月1日	保護者	「子どものがんばりを支えるために～安心から自信へ～」	金井
金岡南小学校中学校区	7月28日	支援者	「発達障がい児、先生とともに四苦八苦～成長した今（高校、大学）の姿をお伝えします～」	田中・福島・ びあ講師
美原中学校	5月18日	中学生	「見えない障がい～発達障がいについて考えよう～」	小田・田中・ 福島
東百舌鳥中学校	8月1日	支援者	「見えない障がい～発達障がいについて考えよう～」	小田・田中・ 福島
美原中学校	11月15日	中学生	「誰もがその人らしく暮らせる社会を目指して～私たちにもできる！『合理的配慮』～」	小田・田中・ 福島
浜寺南中学校	8月29日	支援者	「発達障害のある／その疑いのある生徒の理解と授業での対応～困った子ども？実は、困っている子ども！～」	金井
百舌鳥支援学年のつどい	11月28日	保護者	あい・ふあいる活用セミナー	福島
えいたいほのか	6月15、21日	支援者	あい・ふあいる活用セミナー	福島
放課後クラブホップ	10月12日	支援者	児童発達支援について	板野
放課後等デイサービスこいろ	11月21日	支援者	療育、スケジュール支援について	小田・喜多野 田中
NPO法人み・らいずみーと	11月28日	支援者	保護者への情報提供の仕方について	小田
Teco	2月16日	支援者	児童発達支援について	船越
はるか	3月13日	保護者	「サポートブックを作ってみよう！」	田中
Creative studio はのん	4月25日～3月15日	支援者	「子どもの行動観察と理解」他8回	山本あ・金井 田中・福島
ほのか	6月26日～3月5日	支援者	「ことばの発達、社会性（かかわり）の発達について」他5回	金井・松本

▼母親として『体験談』を届けたもの

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
9月4、6、7日	めだか教室	保護者	先輩保護者による子育ての体験談から 講師名：びあ講師5名
2月14日	堺市難病患者支援センター	保護者	我が子に関するさまざまな人とのつながり方・つなげ方 講師名：山本す・ 阪田・びあ講師

▼障がい児の保護者（母親）を支援することについて

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
10月31日	堺市幼保推進課	支援者	障害をもつ子どもの保護者支援について 講師名：福島・神前・高木
1月28日	ファミスタカレッジ 堺	一般市民	障がい児・者と家族のエンパワメントのために 講師名：山本あ
3月6、9日	堺市幼保推進課	支援者	あい・さかい・サポーター養成研修「保護者の支援について」 講師名：小田

▼障がいの理解、支援のコツなどについて

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
6月22日	堺市手をつなぐ育成会	保護者	前向きに、自分からがんばる子になるために 講師名：金井
7月15日	岐阜県土岐市子育て支援課	支援者	KIDS 検査の理解と解釈について 講師名：金井
11月26日	堺市・関西大学主催	一般市民	手話と障害者コミュニケーションのシンポジウム「多様なコミュニケーション手段の普及について」パネリスト 講師名：小田
2月20日	放課後連絡会	支援者	子どものがんばりを支えるために～安心から自信へ～ 講師名：金井

▼障がい児の福祉制度について

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
6月10日	堺ガーベラの会	一般市民	「成年後見人（市民後見人含めて）理解しよう」 講師名：小田
8月18日	堺市初等教育研究会特別支援教育部会	支援者	「放課後等デイサービスについて」 講師名：小田
2月6日	堺市教育センター	支援者	特別支援教育研修第4回他機関との連携に係る講座「放課後等デイサービスの実際」講師名：小田

▼あいふぁいる 活用セミナー

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
6月2日	堺市子ども家庭課	保護者、支援者	あい・さかいサポーター養成研修【応用講座】 「あい・ふぁいる活用の実際」 講師名：小田・福島
12月9日	Link にわしろ	支援者	あい・ふぁいる活用セミナー 講師名：小田・福島
3月16日	堺市子ども家庭課	支援者	「あい・ふぁいる」活用セミナー～つながろう、つなげよう～ 講師名：小田・福島

▼支援グッズなどについて

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
5月15日	大坂樟蔭女子大学児童学部 児童学科	大学生	ICF と支援グッズについて 講師名：山本あ・早川
11月2日	精華町支援学校親の会	保護者	暮らしや自立を支援するグッズの紹介および支援方法について 講師名：山本あ
12月2日	和歌山県立紀北支援学校 PTA	保護者	暮らしや自立を支援するグッズの紹介および支援方法について 講師名：山本あ

▼障害者（児）の防災について

派遣日	主催及び催事名	対象	講演テーマ
8月16日	堺区基幹相談	一般市民	「NPO 法人ぴーす～これまでの防災の取り組み～」 講師名：小田・田中
10月28日	堺市社会福祉協議会	一般市民	「さかいボランティア・市民活動チャレンジ 災害・防災ボランティア分科会 NPO 法人ぴーす～防災の取組～」 講師名：小田・田中
11月26日	松原市まつのみ福祉会 後援会	保護者、 支援者	「障がい者の防災について～我が家でできる事を考えましょう～」 講師名：小田・田中
1月26日	奈良県立西和養護学校 PTA	保護者	「インクルーシブ防災～私たちの子供たちが助けられ上手になるために～」 講師名：小田・田中
2月11日	松原市障害者団体等活動協 議会	保護者、 支援者	障がい者の防災について～我が家でできる事を考えましょう～ 講師名：小田・田中
3月14日	岸和田市立公民館	保護者、 支援者	障がい児、守る防災～怖がらせずに伝えて、まずはできる事から～ 講師名：田中・福島

■■ 他機関・団体との協働、協力をしたもの ■■

ぴーすは、幅広く、さまざまな方たちとおつきあいをしています。
その「おつきあい」の中で、協働・協力を依頼されることも多く、
施設の視察に来られる方もいます。
平成 29 年度に実施したものは以下の通りです。



▼外部へ、出展などの協力をしたもの

派遣日	依頼者と開催場所	対象	出展などのテーマ
4月2日	NPO 法人チャレンジ・クラブ 堺市総合福祉会館	一般市民	Blue Challenge Minami-Osaka2017
6月22日	堺市手をつなぐ育成会 堺市産業振興センター	保護者	教材、支援グッズの展示
7月8日	ラーゴム・ジャパン株式会社 グリーンパレス春日井	支援者	教材、支援グッズの展示

派遣日	依頼者と開催場所	対象	出展などのテーマ
7月22日	堺支援学校 堺支援学校グラウンド	一般市民	障がいのある子どもが楽しめるゲームの支援協力
8月25日	奈良県特別支援教育研究会 奈良県明日香養護学校	支援者	教材、支援グッズの展示
10月7日	ラーゴム・ジャパン株式会社 国際医療福祉大学	一般市民	教材、支援グッズの展示
10月29日	百舌鳥梅町3丁目自治会 百舌鳥梅町3丁目集会所	地域住民	第23回文化祭 土曜ぼんたの書道作品出展
12月2日	和歌山県立紀北支援学校 和歌山県立紀北支援学校	保護者	教材、支援グッズの展示協力
12月2、3日	地域活動支援センター交流会 堺市役所本館ロビー	一般市民	地域活動支援センター紹介 パネル展示会
3月25日	なんとカンファレンス 畿央大学	保護者・支援者	障害支援技術について考えるカンファ 支援グッズ展示協力

▼ぴーす内の施設・事業の視察

派遣日	依頼者	対象	視察内容
7月13日	社福)コスモス障害者(児) 生活支援センターおおはま	支援者	ぴーすの児童デイぼんた
8月29日	堺市幼保推進課	支援者	ぴーすの児童デイびころ、生活支援グッズのお店ぼっしゅ

▼ヒアリングに協力したもの

派遣日	依頼者	対象	ヒアリングなどのテーマ
11月30日	輪母ネットワーク	保護者	防災冊子制作の原稿協力
1月24日	堺市市民活動コーナー	支援者	堺市市民活動コーナーにおける市民活動支援業務協働に関するヒアリング及び現場見学と取材
12月12日～	NPO 法人チャレンジ・クラブ	一般市民	発達障害啓発イベント「Blue Challenge Minami-Osaka2018」への誘致依頼

▼その他

「キッズサポートセンターさかい※」へのアドバイザー業務を、ポーネルンドより委託され、実施しました。

実施日：4月20日、5月31日、6月16日、6月28日、7月19日、9月12日、
10月17日、11月9日、11月16日、12月1日、1月30日、2月6日、
2月28日、3月15日



※堺市が、高島屋、ポーネルンドとコラボレーションしてく子どもと保護者の「遊びを出発点に気軽に集い・交流し・相談できる場をつくり、子育てにかかる不安感・負担感を軽減することをめざして取り組んでいる子育て支援施設

■ ■ 会議や集まりの一員として参加したもの ■ ■

ぴーすは、それぞれのスタッフや事業所がさまざまな立場で、団体の役職・協議会の委員をつとめたり、ネットワークなどへ参加したりしています。平成 29 年度は以下の通りです。

- ・ 特定非営利活動法人 堺障害者団体連合会
- ・ 社会福祉法人 堺市社会福祉協議会
- ・ 社会福祉法人 堺市社会福祉事業団
- ・ 特定非営利活動法人 堺市相談支援ネット
- ・ 特定非営利活動法人 堺市障害者就労促進協会
- ・ 堺市手をつなぐ育成会
- ・ 社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会

- ・ 堺市 社会福祉審議会
- ・ 堺市 障害者施策推進協議会
(権利擁護部会/障害児支援専門部会/
障害福祉計画策定専門部会/
発達障害者支援専門部会)
- ・ 堺市 地域福祉計画推進懇話会
- ・ 堺市 障害者スポーツ・レクリエーション大会 実行委員会
- ・ 堺市 人権教育推進協議会
- ・ 地域活動支援センター 情報交換会
- ・ さかい障がい児放課後連絡会
- ・ 『ありがとう！えのきはいむ』実行委員会

■ ■ メディア取材・原稿依頼など ■ ■

<全国手をつなぐ育成会>

理事長：指導誌 手をつなぐ 2月号

『～家族の立場から～

形は変わっても思いは変わらない』



<國學院大學・兵庫医科大学>

市民活動局：学会誌 12月 13日発行

冊子『発達障がいがある子のための

交通安全教育指導事例集』



<生涯発達科学会>

理事長：発達人間学研究

第 18 巻 第 1 号

平成 30 年 2 月

手記『平成生まれの障害者—
その子育てと成人した
今の暮らしを振り返って—』



その他

平成29年度の活動報告書。ここまでは「対象(ターゲット)」や「テーマ」に分けて、報告をしてきました。

最後に『その他』として「NPO 法人として」「各事業所として」の報告と、「人材育成として」の職員が受講した研修を、まとめて記載いたします。

■■ NPO 法人として ■■

<平成29年度 総会及び理事会>

- ・総会は、1回開催。5月25日(木) 10:30~12:00
出席者 22名(内委任状出席者 13名)
- ・理事会は、計8回開催 5/10、6/12、7/5、8/8、9/12
10/4、11/13、12/11

<正会員> 平成29年度の正会員数: 23名

【正会員交流会 2017.11.28 報告】

ぴーす正会員の交流会を事務所で行いました。会員の近況報告でワイワイ盛り上がったあと、編集集中のぴーす設立記念誌(仮)の第1稿を見ながら、懐かしい想いで話に花が咲きました♪



<法人の事業報告書を、事業利用者に配布>

昨年度に引き続き、総会終了後、承認された『法人の活動報告書』を正会員・ふぁにいメイト・ぴあリーダー・関係機関や団体等取引先といった市民活動に関与する方々に、そして、ぴーすの児童ティバんだ・ぼんた・ぴころ・ぴーすの支援プランセンターの利用者に配布いたしました。

これにより、ぴーすの市民活動について様々な立場の人に、多様なぴーすの活動を知ってもらう機会になり、事業連携を強めることにつながりました。



<ボランティアの活躍>

ぴーすは設立前から、数多くのボランティアを受入してきました。特に、障がい児母親であるボランティアスタッフは、ぴーすの市民活動にとって「なくてはならない存在」です。

平成28年度に開始した『ボランティア登録制度』が定着し、様々な活動に参加がありました。

ぴーすのブログやメールニュースふぁにいの記事ライター、生活支援グッズのお店ぼっしゅの支援グッズキーパー、セミナーや座談会のぴあ講師、しゃべり場・おもちゃ図書館/広場・鉄道クラブの活動サポーターなど、たくさんのボランティアが大活躍の一年でした。



・・・ボランティアに興味のある方へ・・・

「やりたいことを・やりたいときに・やれるだけ」

ボランティアの扉はいつでも開いています。あななの経験や感性、好きなことや得意なことを活かせる場がたくさんあります。あなたの手にある『温もりのバトン』をこれからの親子につなげてくれたら、これほど嬉しいことはありません。

できることから大丈夫です！ぴーすまで、ご連絡下さい。



その他

<新しいぴーすパンフレットの作成>

これまでのパンフレットは、平成18年に作成したパンフがベース。表紙に、「障害児者本人とその家族の楽しい暮らしを支援する」、という言葉で、ぴーすの理念を表現していたものの、多岐にわたる事業内容説明に、ほとんどスペースがさがされ、活動の効果や期待、そして、市民活動で障害児母が、多数活躍している現状が伝えきれていない、という問題がありました。

さらには、ここ数年、「障害の疑い」という、段階での相談利用が多くなっており、初めてパンフを手にする保護者にとって、抵抗感もあるのでは？との懸念もありました。

そこで、平成29年度に、認定NPO法人サービスグラントの助成を受け、専門的スキルを持つ社会人のボランティア集団（通称プロボノチーム）のサポートを受けました。

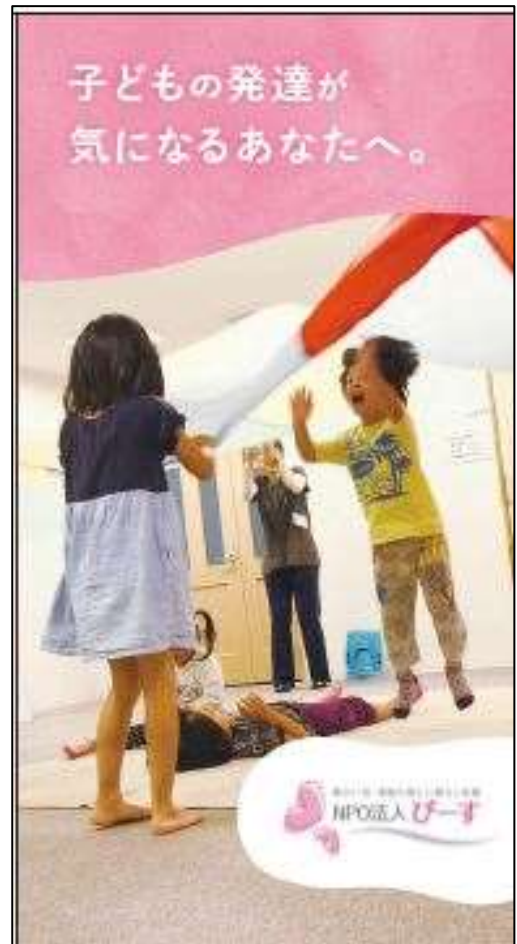
具体的には、プロボノチームといっしょに、これまでのぴーすパンフレットの課題を洗い出し、その解決の方向性をともに考え、計画し・・・と、長い時間をかけての実施となりました。

その過程で、ぴーすの利用者、障がい児母ボランティア、職員、そして、協働連携している団体、関係機関に、ぴーすについてのヒアリング調査を行ったのですが、その人数はプロボノチームが驚くほどの数となり、ぴーすに対する貴重な『想い』が集まりました。

その『想い』の中に繰り返し出てきた言葉が『恩』『温もり』。2つを「1つの串」として、新しいパンフが誕生しました！

この新しいパンフは、たくさんの人の『想い』のつまった、『支援を必要とする親子』への手紙になっています。

『支援を必要とする親子』に、『温もり』と共に届け、子どもたちと笑いあえるあたたかい未来を一緒に作りたいたいと職員一同気持ちを新たにしています。



その他

■■ ぴーすの職員が受講等した研修 ■■

▼法人内研修

実施日	研修テーマ	対象
5月26日	研修制度説明・個人情報取り扱い・虐待防止等・今年度方針	全職員
9月7日	言葉と発達とコミュニケーション	ぼんだ・ほんた・びころ
10月6日	新人研修	びころ・WAM
10月11日	障害特性理解・人権研修・防災ワークショップ・職員像ワークショップ	全職員
10月12日	障がい児のいる家族・きょうだい・父・祖父母の思い	ぼんだ・びころ
11月16日	気になる行動・パニック多動・自傷・こだわり	ぼんだ
11月30日	発達障害の特性理解について	WAM
12月1日	本人も家族も楽になる『快適な我が家』	びころ・ばれっと
1月25日	西百舌鳥小学校 通常学級3年男子授業参観 金井講師同行	びころ
2月13日	ドレミファポップ放課後活動	ぼんだ
2月28日	東百舌鳥小学校 支援学級5年男子授業参観 金井講師同行	びころ
2月28日	読書研修「自閉症スペクトラムのための環境づくり」	ぼんだ
3月1日	SAY（性・生）の会	びころ

▼法人内OJT研修

実施日	研修テーマ	対象
12月1日	本人も家族も楽になる『快適な我が家』	ぼんだ
1月15日	あいこども園 金井講師同行	びころ
1月29日	ほのか同行	ぼんだ
2月9日	施設支援 面談同席	びーせん
2月13日	施設支援 面談同席	びーせん
2月21日	デイぼんだ 放課後活動	びころ
3月13日	八下西小学校 ケースカンファレンス同行	びーせん

▼法人外研修

実施日	研修テーマ	主催者	受講者所属事業
5月15日	高等部卒業後の進路について	さかい放課後連絡会	ぼんだ
6月13日	新任相談支援専門員のための勉強会 全10回(H30/2/3まで)	堺市障害施策推進課	Pセン
6月22日	前向きに・自分から頑張る子になるため安心のベースを構築する	堺市手をつなぐ育成会	ぼんだ
7月6日	障害福祉に携わる職員としての大切な視点	ライフサポート協会	ぼんだ
7月11日	発達障害の子どもにみられる「見る力」の問題とその理解	大阪医科大学LDセンター	びころ
9月6日	平成29年度相談機関研修～なぜ上手く生きられないのか～	堺市健康福祉局健康部	WAM
9月12日	9月発達学習会「堺の障害児療育」	コスモス研究所	ぼんだ・びころ
9月25日	第1回研修 新人指導員交流会	さかい障がい児放課後連絡会	びころ
10月24日	障がいのある子どもの子育て講座	すきっぷクラブ	びーせん
11月1日	あい・さかい・サポートリーダー フォローアップ研修	子育て支援部幼保推進課	びころ・びーせん

その他

11月7日	平成29年度児童発達支援センター見学会	社会福祉法人堺市社会福祉事業団	ぴころ
11月8日	～グループワーク～元気を保つプラン作り	美原区障害者基幹相談支援センター	ぱれっと
11月19日	発達障がい学生の就労支援	プール学院大学	ぴーせん
11月19日	本人の特性理解度合いと適応障害	特定非営利活動法人アズウィッシュ	ぴーせん
11月23日	障がいのある人の創作と市場～アトリエインカーブの実践～	社会福祉法人素王会アトリエインカーブ	ぱんだ
12月2日	さかいチャイルドサポーター フォローアップ研修	ポピンズ	ぼんた
12月19日	公立子ども園地域発達支援教室 きらきらクラブの取り組み	発達学習会	ぴころ
12月20日	第1回指定障害児支援事業所研修「障害者虐待の理解」	堺市子ども青少年育成部子ども家庭課	ぱんだ・ぼんた
1月7日	ファシリテーター養成講座	ひとまち	ぱれっと・WAM
1月12日	障害児相談支援の現状より	障害児相談支援事業主催	ぴーせん
1月13日	行動や身体症状にあらわれる子どもの心の理解	大阪医科大学LDセンター	ぴころ
1月20日	思春期発達障害の基礎と教育的支援	国際ロータリー第2680地区社会奉仕委員会	ぼんた
1月27日	言葉のアセスメントについて	大阪医科大学LDセンター	ぴころ
1月27日	読み書きの評価に使う検査について	大阪医科大学LDセンター	ぴころ
1月28日	障がいのある人もない人もともに暮らせる社会を目指して	こころの相談ネット ふうが	WAM
2月2日	大阪府相談支援従業者専門コース別研修 権利擁護・意思決定コース	大阪府障がい者自立相談支援センター	ぴーせん
2月3日	発達障害者への支援 ソーシャルワーカーからの視点	臨床発達心理会大阪和歌山支部	ぴころ
2月16日	本人の想いや願いに寄り添い、その人らしい生活を支える	さかい障害児(者)施設部会	ぱんだ・ぼんた
2月19日	SNS発信の活用セミナー	堺市手をつなぐ育成会	ぱんだ・ぼんた・ぴころ

▼法人外研修（キャリアアップ）

【相談支援従事者 初任者研修】

ぴーすの児童デイぱんだ 喜多野由莉

ぴーすの児童デイぼんた 森 勇夫

ぴーすの児童デイぴころ 船越雅代

【あい・さかいサポーター養成研修】

ぴーすの児童デイぼんた 高山亜佑美

【防災士】

1/27～1/28

WAM 田中知子



平成29年度 年間利用者実数・延べ数・活動数等 集計

▼地域活動支援センター ぱれっと

プログラム 延べ参加人数	回数	人数
よろず相談・情報提供	242	539
個別来所相談(予約等の面談数)		256
居場所提供:自主活動サポート	237	783
ぱれっとアート展	5	107
啓発/余暇情報等仲間づくり	242	11
おもちゃ図書館 /おもちゃスペシャル	19	158
しゃべり場	9	95
鉄道スペシャル	16	183
えんばわミーティング	61	237
小さなセミナー	10	65
【特別開催】アート体験	3	15
合計	844	2449 ※

▼あい・すてーしょん(地域支援特別事業)

プログラム	人数
あい・ふあいる活用セミナー	59
幼児・学齢期 進路相談会	36
幼児～低学年対象 連続勉強会	149
のべ利用者数 合計	244 ※

▼子育て居場所事業(WAM助成事業)

プログラム	人数
おもちゃ広場	339
発達障害児のためのコミュニケーションWS	45
シングル家庭のためのおしゃべり&ランチ会	35
のべ利用者数 合計	419 ※

▼生活支援グッズのお店 ぼっしゅ

店舗のべ利用者	374
ネットショップ等利用件数(店舗以外すべて)	441
のべ利用者数 合計	815 ※
販売件数	2043

▼▼市民活動・居場所等関係事業 集計

年間のべ利用者数 総合計	3927 ※
--------------	---------------

■ぴーすの支援プランセンター

年間 利用契約者数	144 *
年間 相談件数	2659 **

■保育所等訪問支援事業

年間 利用契約者数	5 *
年間 相談件数	72 **

■放課後等デイサービス及び児童発達支援

	ぱんだ	ぼんた	ぴころ
児童発達支援	2	0	31
放課後等 デイサービス	45	27	12
年間契約者 合計	47	27	43
3事業 合計	117 *		
年間 延べ利用数	2419	1683	1984
3事業 合計	6086 **		

■指定事業等関係事業 集計

年間利用実人数 総合計	266 *
年間利用延べ数 総合計	8817 **

◆ぴーすのあい・すてーしょん(療育支援事業)

個別相談	年間 利用契約者数	88	*
	年間 相談件数	190	**
施設支援指導	年間 利用施設数	72か所	
	年間 利用件数	404件	

★NPO法人の会員等

ぴーす正会員	23
メールニュースふあいに購読者	61
合計	84

★ぴーすからの情報発信

メールニュースふあいに	292
ぴーすのブログ	98
Facebook	135
合計	525

平成 29 年度 事業報告書

【制作】 特定非営利活動法人 ピーす

〒591-8032 堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

Tel 072-250-9060

Fax: 072-250-9061

Mail p-office@p-s-sakai.net

HP <http://p-s-sakai.net>

